秋田県文化財調査報告書第223集

山崎遺跡発掘調査報告書

1992・3

秋田県教育委員会

秋田県埋蔵文化財センター

山崎遺跡発掘調査報告書

1992・3

秋田県教育委員会

序

秋田県には、先人の残した多くの文化財が残されています。これらの文化遺産は、現代に生きる私たちの責任で保護し、未来に継承していくべきものであります。

このほど建設省東北地方建設局秋田工事事務所により、秋田外環状道路建設事業が計画され、この計画路線が下新城小友所在の墓地にかかることになりました。山崎遺跡は、その墓地の移転先にあたっており、墓地造成工事に先立って発掘調査を実施いたしました。

その結果、平安時代の掘立柱建物跡や土坑などが検出され、大きな成果を上げることができました。

本書はこの成果をまとめたものでありますが、県民各位の文化財に対する御理解と歴史研究の上でいささかでも役立てば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査にあたり御指導、御協力下さった建設省東北地方建設局秋田工事事務所、秋田市教育委員会、下小友自治会ならびに関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

平成４年３月10日

秋田県教育委員会

教育長　　橋本顕信

例　　言

1　本書は、秋田県教育委員会が主体となって調査を行った山崎遺跡の発掘調査報告書である。

2　本書の編集・執筆は、小畑　巌が行った。

3　土層及び遺物の色調観察は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版　標準土色帖』を使用した。

4　周辺の遺跡分布図に使用した地形図は、建設省国土地理院発行の２万５千分の１の地形図である。

凡　　例

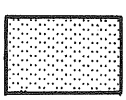
1　遺構実測図の縮尺は、1／5・1／20で作成したものを、1／10・1／40に縮小して掲載した。遺物実測図の縮尺は、1／1で作成したものを1／1または1／3に縮小して掲載した。

2　遺構および遺物に使用した略号は、次のとおりである。

ＳＢ（掘立柱建物跡）　ＳＫＩ（竪穴遺構）　ＳＫ（土坑）

ＳＤ（溝状遺構）　Ｐ・ＳＫＰ（柱穴）　Ｓ（礫）

3　掲載図面中に使用したスクリーントーンおよびシンボルマークは、次のとおりである。


内面黒色処理

出土遺物

4　土器断面図の黒塗りは、須恵器を表す。

5　本書で赤焼土器として扱うものは、ロクロや叩きによる成形など技術的に須恵器の技法を用いながら、意図的に酸化炎焼成を行っているものである。

6　報告にあたって、調査時に使用した遺構略号を変えたものがある。それは、次のとおりである。

調査時	報告時
SI　12	SK　12
SI　14	SK14 (A) (B)
SI　15	SKI　15

目　　次

序
例言・凡例
目次
第１章　はじめに……1
　第１節　調査に至る経過……1
　第２節　調査要項……1
第２章　周辺の環境……2
　第１節　周辺の地形……2
　第２節　周辺の遺跡……3
第３章　発掘調査の概要……6
　第１節　遺跡の概観……6
　第２節　調査の方法……8
　第３節　調査の経過……8
第４章　調査の記録……11
　第１節　検出遺構と出土遺物……11
　第２節　遺構外出土遺物……35
第５章　まとめ……38

挿　図　目　次

第１図　周辺の地形模式図……2
第２図　周辺の遺跡分布図……4
第３図　基本土層図……6
第４図　遺跡地形図……7
第５図　遺構配置図……9・10
第６図　SB41掘立柱建物跡実測図……12
第７図　113号柱穴実測図……13
第８図　柱穴出土遺物……14
第９図　柱穴・柱穴列配置図……19・20

第10図　SKI15竪穴遺構・SK26土坑実測図……21
第11図　SK02・03・04・05・07土坑実測図……22
第12図　SK08土坑実測図……24
第13図　SK08土坑遺物出土状況図……25
第14図　SK11・12・13・18土坑実測図 ……26
第15図　SK14(A)(B)・20・21土坑実測図 ……28
第16図　SK24・25土坑実測図 ……29
第17図　土坑出土遺物（1） ……30
第18図　土坑出土遺物（2） ……31
第19図　土坑出土遺物（3） ……32
第20図　土坑出土遺物（4） ……33
第21図　遺構外出土遺物（1） ……36
第22図　遺構外出土遺物（2） ……37

表　目　次

第1表　周辺の遺跡一覧表…… 5
第2表　柱穴一覧表（1）……15
第3表　柱穴一覧表（2）……16
第4表　柱穴一覧表（3）……17
第5表　柱穴一覧表（4）……18

図　版　目　次

図版1　1　遺跡遠景（南西⇒）
　　2　遺跡遠景（北東⇒）
図版2　1　調査前近景（西⇒）
　　2　調査終了後近景（西⇒）
図版3　1　遺構集中（北東⇒）
　　2　遺構集中（南西⇒）

	3	遺構集中（南⇒）
図版 4	1	SB41掘立柱建物跡全景（西⇒）
	2	113号柱穴遺物出土状況①（東⇒）
	3	113号柱穴遺物出土状況②（東⇒）
図版 5	1	SKI15竪穴遺構土層断面（南東⇒）
	2	SKI15竪穴遺構土層断面（南⇒）
	3	SKI15竪穴遺構完掘状況（南⇒）
図版 6	1	SK02土坑土層断面（北⇒）
	2	SK02土坑完掘状況（北⇒）
	3	SK04土坑プラン確認状況（東⇒）
	4	SK04土坑完掘状況（東⇒）
	5	SK05土坑土層断面（東⇒）
	6	SK05土坑完掘状況（南⇒）
	7	SK07土坑土層断面（南⇒）
	8	SK07土坑完掘状況（北⇒）
図版 7	1	SK08土坑土層断面（南⇒）
	2	SK08土坑遺物出土状況（東⇒）
	3	SK08土坑完掘状況（東⇒）
図版 8	1	SK11土坑完掘状況（南西⇒）
	2	SK12土坑土層断面（南⇒）
	3	SK12土坑完掘状況（西⇒）
	4	SK13土坑土層断面（東⇒）
	5	SK13土坑完掘状況（東⇒）
	6	SK14(A)(B)土坑完掘状況（南⇒）
	7	SK18土坑土層断面（東⇒）
	8	SK18土坑遺物出土状況（南⇒）
図版 9	1	SK20土坑プラン確認状況（東⇒）
	2	SK20土坑完掘状況（南⇒）
	3	SK21土坑完掘状況（西⇒）

4　SK24・25土坑土層断面（東⇒）
5　SK24土坑完掘状況（東⇒）
6　SK25土坑完掘状況（東⇒）
7　SK26土坑完掘状況（南⇒）
8　調査風景（東⇒）
図版10　1　SD22溝状遺構完掘状況（北東⇒）
2　SD29溝状遺構完掘状況（南⇒）
3　SD30溝状遺構完掘状況（南⇒）
図版11　1　SD35・36溝状遺構完掘状況（南東⇒）
2　SD38溝状遺構完掘状況（南⇒）
3　SD39溝状遺構完掘状況（南⇒）
図版12　出土遺物－縄文土器・土師器－
図版13　出土遺物－赤焼土器－
図版14　出土遺物－須恵器－
図版15　出土遺物－土製品・石器・鉄滓－

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

秋田市下新城地区は、秋田市郊外の北部に広がる田園地帯である。広々とした水田を見下ろす段丘上には、青崎、下小友等の集落が営まれている。

この静かな田園地帯にも年々開発が加えられ、昭和61年４月建設省秋田工事事務所計画の秋田外環状道路の一部が、下小友集落の墓地にかかることが明らかになった。そこで、墓地の移転が協議され、現在地の北東側に移転地が決定された。

この地は、秋田県遺跡地図掲載の周知の遺跡ではなかったが、平成２年４月秋田県教育委員会により分布調査が行われ、新たに発見された遺跡である。

第２節　調査要項

遺跡名称	山崎遺跡　※遺跡記号　５ＹＺ
所在地	秋田県秋田市下新城小友字山崎２－２、２－４
遺跡状況	山林
調査面積	750㎡
遺跡時期	縄文時代、平安時代、中世
調査目的	墓地造成工事に係る事前調査
調査期間	平成３年５月８日～６月14日
調査主体者	秋田県教育委員会
調査員	庄内昭男（秋田県埋蔵文化財センター文化財主査）
	小畑　巌（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事）
調査総務担当	佐田　茂（秋田県埋蔵文化財センター主査）
	佐々木　真（秋田県埋蔵文化財センター主任）
調査協力機関	建設省東北地方建設局秋田工事事務所
	秋田市教育委員会
	下小友自治会

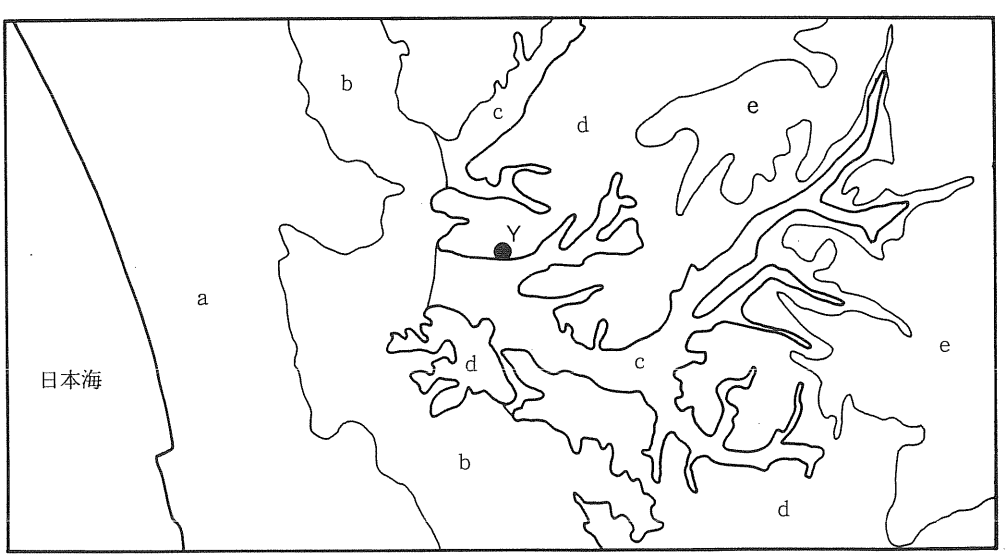
第２章　周辺の環境

第１節　周辺の地形（第１図）

遺跡周辺の地形を西から概観すると、日本海に接するように標高10～20ｍの海岸砂丘が発達し、その東に標高10ｍ以下の沖積低地、そして標高50～100ｍの丘陵地、標高200ｍ以上の山地に分けられる。丘陵地は新城川、馬踏川とその支流により浸食を受け、標高10～50ｍの谷底平野が形成されている。

海岸砂丘と沖積低地が接するあたりを国道７号線、JR奥羽本線がほぼ並行して南北に走っている。沖積低地は主に水田として利用されているが、八橋油田の名で有名な石油・天然ガスの産出地でもある。また、丘陵上にも道川・黒川の各油田が認められる。

遺跡は、新城川とその支流の浸食作用により形成された谷底平野と接する丘陵南縁に位置する。この丘陵は、上新城丘陵と呼ばれ、数段の段丘面が認められる。その最も下位の段丘面に遺跡は存在している。遺跡の西の段丘面には下小友、青崎の集落が営まれている。



Ｙ：山崎遺跡　　ａ：海岸砂丘　　ｂ：沖積低地　　ｃ：谷底平野

ｄ：丘　陵　　ｅ：山　地

第１図　周辺地形模式図

第２節　周辺の遺跡

第２図周辺の遺跡分布図中には、100の遺跡を数えることができる。時代ごとの遺跡数は、縄文時代28遺跡、弥生時代５遺跡、古代56遺跡、中近世25遺跡（うち館跡12カ所を含む）である。標高100m以下の丘陵上と標高20～30mの海岸段丘上に大部分が立地しており、沖積低地に立地する少数の遺跡は微高地を選んで営まれている。

山崎遺跡の1.2ｋｍ北西にある梵天長根遺跡(41)は、平成２年４月から６月にかけて秋田市教育委員会により調査が行われ、土壙17基、土器埋設遺構１基が検出されている。土壙からは、縄文時代後期後葉の土器が出土している。また、遺構外から弥生時代前期の土器も発見されている。上新城中学校遺跡(71)は、新城川右岸の標高35～45mの河岸段丘上にあり、中学校の改築に伴い調査された遺跡である。これまで何度か調査がなされ(昭和30年、同54年、同63年、平成２年)、集石遺構、竪穴住居跡のほか土壙墓約130基が検出されていることから、縄文時代晩期中葉から後葉にかけての墓域と考えられている。

古代になると、山崎遺跡の南東1.3～２ｋｍの丘陵上に須恵器を生産したと思われる窯跡が集中してみられる。末沢窯跡群(53)、大沢窯跡(62)(63)、小林窯跡(64)などがそれである。この時期の調査された遺跡としては潟向Ｉ遺跡(６)があり、火葬墓７基が発見されている。この遺跡は、小泉潟男潟の西の砂丘地にあり、砂山の中腹から骨蔵器を木炭で覆った状態で発見され、５つの骨蔵器に焼骨が入っていたとされる。潟向Ｉ遺跡の北約１ｋｍに位置する北野Ｉ遺跡(１)でも３個体の骨蔵器が発見されているが、詳細は不明である。

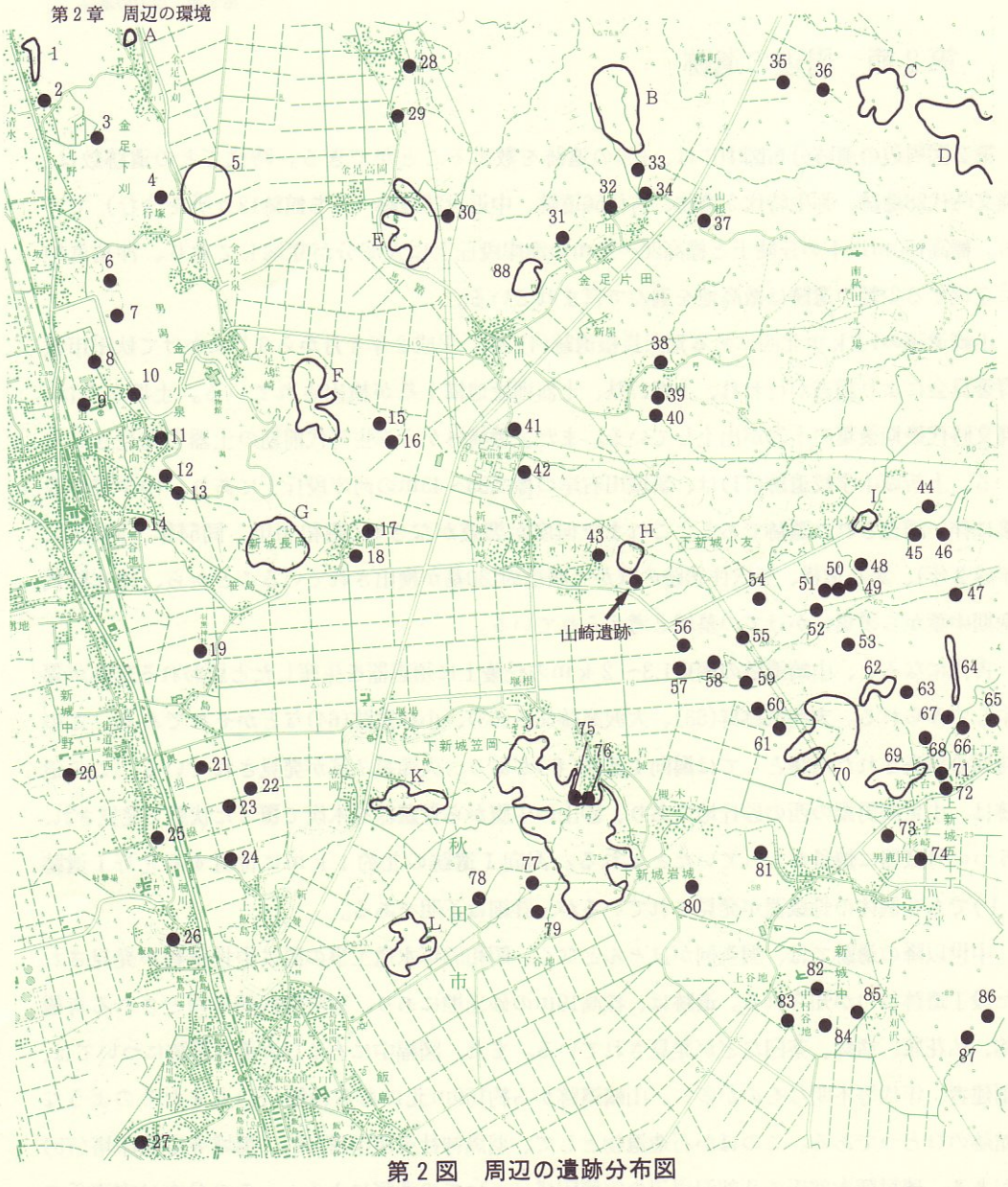
中世以降の遺跡では、調査例がほとんどなく、昭和53年水道工事の際に中世遺物が発見された穀丁遺跡(27)が知られる。遺跡は、標高10mの砂丘地にあり、室町時代前半頃とされる青磁碗、仏花瓶、擂鉢、茶臼などが発見されている。また、図幅中にある12カ所の館跡については、創建者、年代等不明なものが多い。山崎遺跡から約100m北にある箱館(Ｈ)もまたそのような館跡のひとつである。このほか石造遺物として、羽黒神社宝篋印塔(19)、福城寺宝篋印塔(75)がある。磯村朝次郎氏の八郎潟周辺の宝篋印塔についての考察によると、その分布は安東氏の支配領域にほぼ重なること。石材のほとんどが地元産であり、造塔の需要にこたえられるだけの技術を持った石工がすくなくても鎌倉時代後期から八郎潟周辺の産石地に存在していたことが明らかにされている。

（参考文献）

経済企画庁総合開発局国土調査課　『土地分類基本調査　地質・表層地質・土じょう　秋田』1966（昭和41年）

秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図（中央版）』　1990（平成２年）

東北電力株式会社秋田支店、秋田市教育委員会　『秋田市梵天長根遺跡－秋田変電所増設に伴う緊急発



第２図　周辺の遺跡分布図

掘調査報告書－』　1991（平成３年）

秋田市教育委員会　『秋田市上新城中学校遺跡－学校改築に伴う緊急発掘調査概要－』　1989（昭和63年）

秋田市教育委員会　『秋田市上新城中学校遺跡－学校改築に伴う緊急発掘調査概報－』　1991（平成３年）

庄内昭男　「秋田県における古代・中世の火葬墓」『秋田県立博物館研究報告』　第９号　秋田県立博物館　1984（昭和59年）

庄内昭男　秋田市飯島穀丁出土の中世遺物について」『秋田県立博物館研究報告』　第７号　秋田県立博物館　1982（昭和57年）

秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981（昭和56年）

磯村朝次郎　「秋田県における中世宝篋印塔の型式と分布－特に八郎潟周辺の場合を中心として－」『秋田県立博物館研究報告』　第11号　秋田県立博物館　1986（昭和61年）

第１表　周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺構／遺物	番号	遺跡名	遺構／遺物
1	北野Ⅰ	火葬墓／縄文、土師、須恵	55	羽田台Ⅰ	縄文
2	北野Ⅲ	縄文、瓦	56	塩田沢	須恵、赤褐色
3	雨池	須恵、鉄滓、窯壁	57	羽田台Ⅱ	須恵、赤褐色
4	高田	珠洲系陶器	58	末沢	須恵、赤褐色
5	細入	須恵、土師	59	末沢Ⅰ	土師、赤褐色
6	潟向Ⅰ	火葬墓／弥生、赤褐色、須恵	60	末沢Ⅱ	須恵、赤褐色
7	潟向Ⅳ	弥生	61	谷地Ⅰ	須恵
8	金足農高北	縄文	62	大沢窯跡Ⅰ	須恵、赤褐色、瓦、窯壁
9	金足農高	縄文	63	大沢窯跡Ⅱ	須恵、窯壁
10	潟向Ⅱ	縄文	64	小林窯跡	須恵、窯壁
11	潟向Ⅲ	弥生	65	小林Ⅰ	縄文、須恵、赤褐色
12	耳取Ⅰ	弥生	66	小林Ⅲ	縄文、赤褐色
13	耳取Ⅱ	縄文	67	小林Ⅱ	火葬墓／土師
14	追分駅東	縄文、須恵、赤褐色、石鏃	68	松木台Ⅲ	縄文
15	竹子山Ⅰ	石器、須恵、土師	69	松木台Ⅱ	縄文、須恵、土師、赤褐色
16	竹子山Ⅱ	須恵、赤褐色	70	谷地Ⅱ	縄文、須恵、赤褐色、瓦、石器
17	熊野田	石鏃、赤褐色	71	上新城中学校	竪穴住居跡、土壙墓／縄文、石器
18	長岡	須恵、土師	72	日吉神社跡	珠洲系陶器
19	羽黒神社	宝篋印塔	73	杉崎12号	縄文、石斧
20	街道端西	赤褐色	74	杉崎13号	縄文、石斧
21	乳倉	須恵、土師	75	福城寺宝篋印塔	宝篋印塔
22	島下り	須恵、土師	76	福城寺脇弁財天碑	碑
23	雀島	土師	77	源内沢Ⅱ	縄文
24	芋田	赤褐色	78	源内沢Ⅰ	縄文
25	堀川Ⅰ	須恵、赤褐色	79	岩城大沢	縄文
26	堀川Ⅱ	須恵、赤褐色	80	右馬之丞窯跡	須恵、窯壁
27	毅丁	青磁、仏花瓶、擂鉢、石臼	81	堂ノ前	赤褐色
28	蟹沢	須恵、赤褐色	82	片野Ⅰ	縄文
29	金ヶ崎	須恵、赤褐色	83	片野Ⅱ	縄文、須恵、赤褐色
30	二本松	須恵、赤褐色	84	鼻コシリ	須恵
31	待入Ⅱ	赤褐色	85	五百刈沢	須恵、赤褐色
32	待入Ⅰ	須恵	86	五六沢	須恵、赤褐色
33	片田	縄文、石器	87	貝布沢	縄文
34	待入碑	碑２、五輪塔	88	待入Ⅲ	建物跡、火葬墓／須恵、赤褐色
35	馬込Ⅰ	須恵	A	下刈館	珠洲系陶器
36	馬込Ⅱ	土師、赤褐色	B	片田館	
37	浅田	縄文、石器	C	こださ館	
38	羽中	須恵	D	しんしゅう館	
39	松ノ下Ⅰ	須恵、赤褐色	E	高岡館	板碑、五輪塔
40	松ノ下Ⅱ	須恵	F	箱館	
41	梵天長根	土壙、土器埋設遺構／縄文、弥生	G	長岡館	
42	青崎	縄文	H	箱館	
43	蚕沢	縄文、須恵、土師	I	家ノ前館	
44	猿田刈Ⅰ	須恵、赤褐色	J	岩城館	
45	猿田刈Ⅱ	須恵、赤褐色	K	笠岡館	
46	家ノ前Ⅰ	須恵	L	飯岡館	
47	羽鳥沼Ⅰ	須恵			
48	家ノ前Ⅱ	須恵、赤褐色			
49	長面Ⅳ	珠洲系陶器			
50	長面Ⅲ	縄文			
51	長面Ⅱ	瓦質火鉢			
52	長面Ⅴ	赤褐色			
53	末沢窯跡群	須恵			
54	長面Ⅰ	須恵、赤褐色			

表中の語句で一部省略したものがある。それは、下記のとおりである。

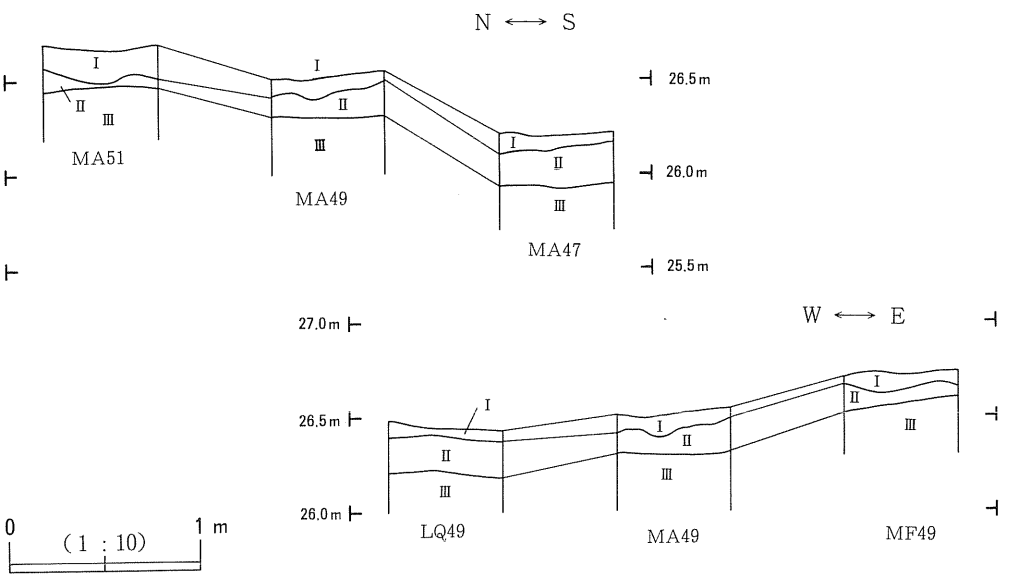
縄　文…縄文土器　　弥　生…弥生土器
土　師…土師器　　須　恵…須恵器
赤褐色…赤褐色土器

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観（第４図）

遺跡は、JR追分駅の東方約３ｋｍに位置し、北緯39°48′19″、東経140°5′96″である。遺跡のある台地は、東から西に細長く張り出しており、その広さは東西約150ｍ、南北40～60ｍである。台地といっても平坦ではなく、北東側が標高27ｍと最も高く、西に向かうにしたがい低くなり標高23ｍと起伏がみられる。台地の東側は、標高を増して山地地形となるが、館跡の郭面を思わせる平坦面が認められる。東を除く台地周囲は水田が営まれており、その標高は14.5～18.5ｍである。

秋田外環状道路は、この台地のほぼ中央部分を南北に貫くように通り、調査区域は計画道路予定地東側に隣接している。その範囲は、東西約40ｍ、南北約20ｍであり、台地のなかで標高の高い部分にあたる。



第３図　基本土層図

第３図として調査区の土層図を掲載した。それによると、Ⅰ層　黒褐色腐葉土、Ⅱ層　炭化粒子、地山粒子を含む黒褐色土、Ⅲ層　明褐色地山土（基盤層）に分けられる。層の厚さは、Ⅰ層が５～20ｃｍ、Ⅱ層が２～20ｃｍである。

秋田外環状道路計画路線
NO.158
NO.157
NO.156
NO.155
NO.154
NO.153
NO.152
NO.151
網目部分が調査区
0
50m

第4図　遺跡地形図

第２節　調査の方法

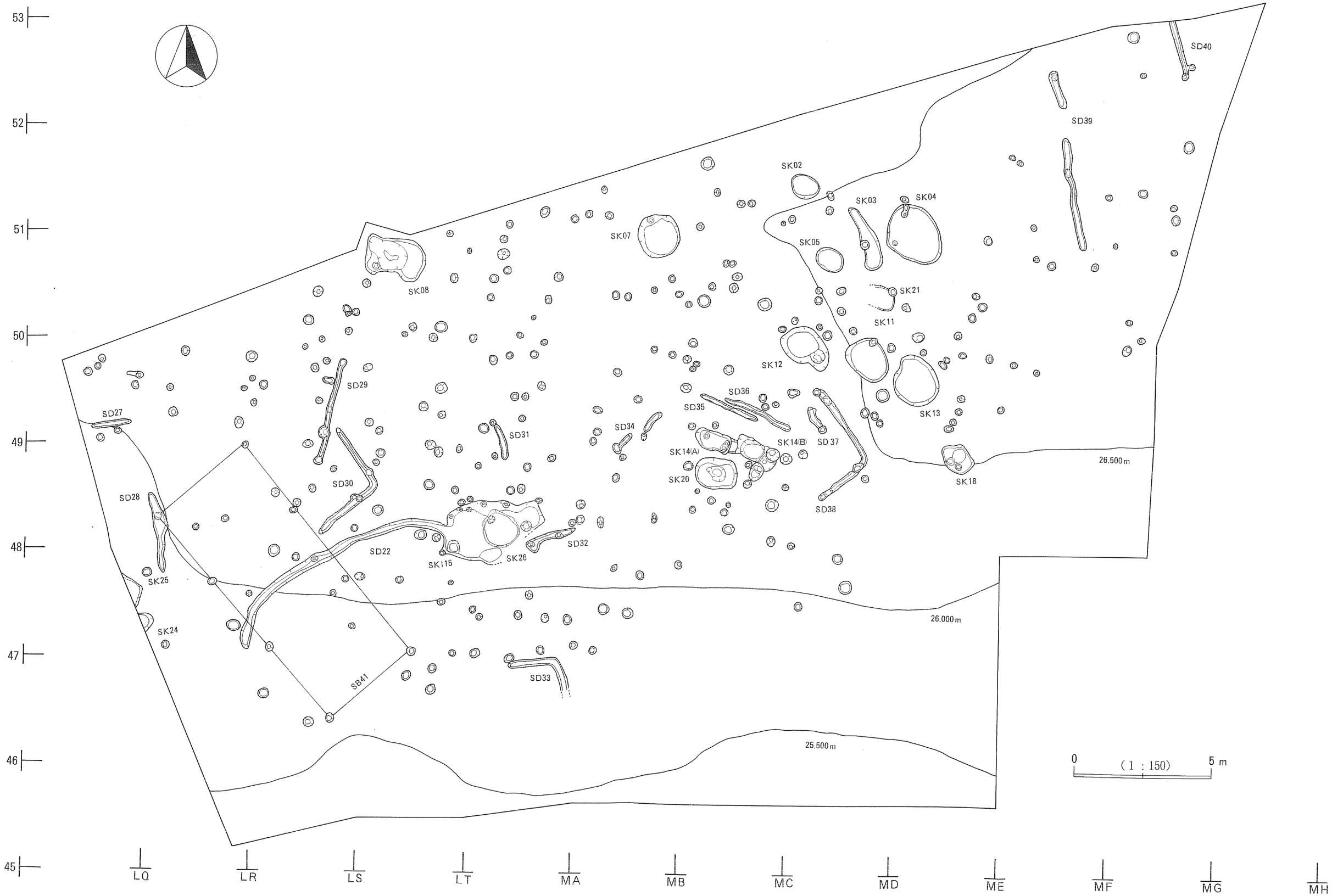
調査区の設定は、計画道路中心杭Ｎｏ,155から東へ40ｍの地点を原点（MA50）として、南北方向（Ｙ軸）及び東西方向（Ｘ軸）に４ｍごとに杭を打設し、４ｍ×４ｍの方眼（グリッド）を設定した。グリッドの呼称は、Ｙ軸に２桁の算用数字、Ｘ軸に２文字のアルファベットをあて、両者を組み合わせて南東隅の杭で行うこととした。

調査は、表土除去後、地山面で遺構のプラン確認を行い、実測図の作成と写真による記録を行うこととした。実測図の作成は、土層断面図、遺物出土状況図、平面図について行った。柱穴様ピットについては、確認面で埋土の注記を行った後、完掘して平面図のみ作成した。但し、一部に遺物出土状況図を作成したものがある。図面の縮尺は20分の１としたが、遺物出土状況図の中には５分の１または10分の１のものもある。

第３節　調査経過

５月８日、作業員さん集合し、プレハブ用地の整地、調査区の草刈を行う。５月９日、LQ49、LR49グリッドについて粗掘り開始。事務所と休憩所となるプレハブを設置。５月10日、LS50、LT50、MA50グリッドについて粗掘りを行う。Ⅱ層中から須恵器及び赤焼土器の破片が出土。５月13日、作業員人数がやや多くなったので、ベルトコンベアーを設置して粗掘り面積を拡大する。また、建設省設置のベンチマークから標高を誘導し、調査区内に移動した。５月14日、遺構に伴わない遺物の取り上げを行う。５月15日、県文化財パトロール谷口氏、斎藤氏来跡。５月21日、遺跡の遠景写真を撮影。５月24日、表土除去が８割以上完了。MF51グリッドで中世のものと思われる陶器片が出土。５月27日、遺跡の基本土層図の作成を行った。５月29日、表土除去と並行して遺構プラン検出作業を行い、200基余の柱穴様ピットを検出した。この柱穴様ピットの調査にあたっては、確認面で埋土の観察を行った後に掘り上げることとした。５月30日、表土除去作業を終了し、遺構の調査に入る。５月31日、SK04、SK07のプラン確認写真を撮影。MA49グリッドに検出された柱穴様ピット（113）の埋土下部から赤焼土器坏３点が出土した。

６月４日、SK08土坑の遺物取り上げを開始。この土坑の埋土下部からは赤焼土器坏がまとまって出土している。遺物は非常に脆く、取り上げる時に細かく割れてしまい、復元が困難なものもありそうである。６月７日、土坑の実測作業を主に行った。SK08を除く遺構から出土している遺物は小破片が多い。６月11日、雨が多く作業はやや遅れている。晴間をみて調査区の全景写真を撮影した。６月14日、調査を完了し撤収した。


53
52
51
50
49
48
47
46
45
LQ
LR
LS
LT
MA
MB
MC
MD
ME
MF
MG
MH
SD40
SD39
SK02
SK03
SK04
SK05
SK07
SK08
SK21
SK11
SK12
SK13
SK18
SD36
SD35
SD37
SD34
SD31
SK14(A)
SK14(B)
SK20
SD38
SD29
SD27
SD30
SD28
SK25
SK24
SD22
SK115
SK26
SD32
SD33
SB41
26.500m
26.000m
25.500m
0
(1 : 150)
5 m

第5図　遺構配置図

第４章　調査の記録

第１節　検出遺構と出土遺物

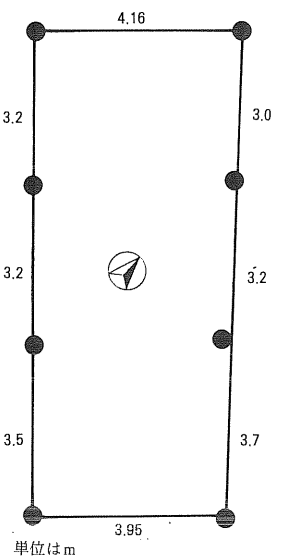
調査区内で検出した遺構は、掘立柱建物跡１棟、竪穴遺構１基、土坑17基、溝状遺構14条、柱穴295基（掘立柱建物跡とした柱穴を含む）である。いずれも地山面においてプランを検出しており、埋土中に炭、焼土粒を含むという特徴が認められた。

出土遺物は、土師器、須恵器、赤焼土器（凡例５参照）、鉄滓などである。このうち赤焼土器の出土量が全体の９割以上を占める。

（１）掘立柱建物跡・柱穴および柱穴列

①掘立柱建物跡

SB41掘立柱建物跡（第６図）



調査区の西端に位置し、桁行３間、梁行１間の建物跡である。柱穴は、径が22～35ｃｍとやや小規模であるが、掘り方を有する。総間は、桁行9.9m、梁行4.1mである。桁行の柱間は、3.0～3.2mであるが、南東側の柱間がやや広く3.5～3.7mとなっている。棟方向は、磁北に対して西に約40度ふれており、SD30・SD38等の溝状遺構とほぼ同じ方向である。柱穴埋土は、炭、地山粒を含む暗褐色土である。遺物は、出土しなかった。

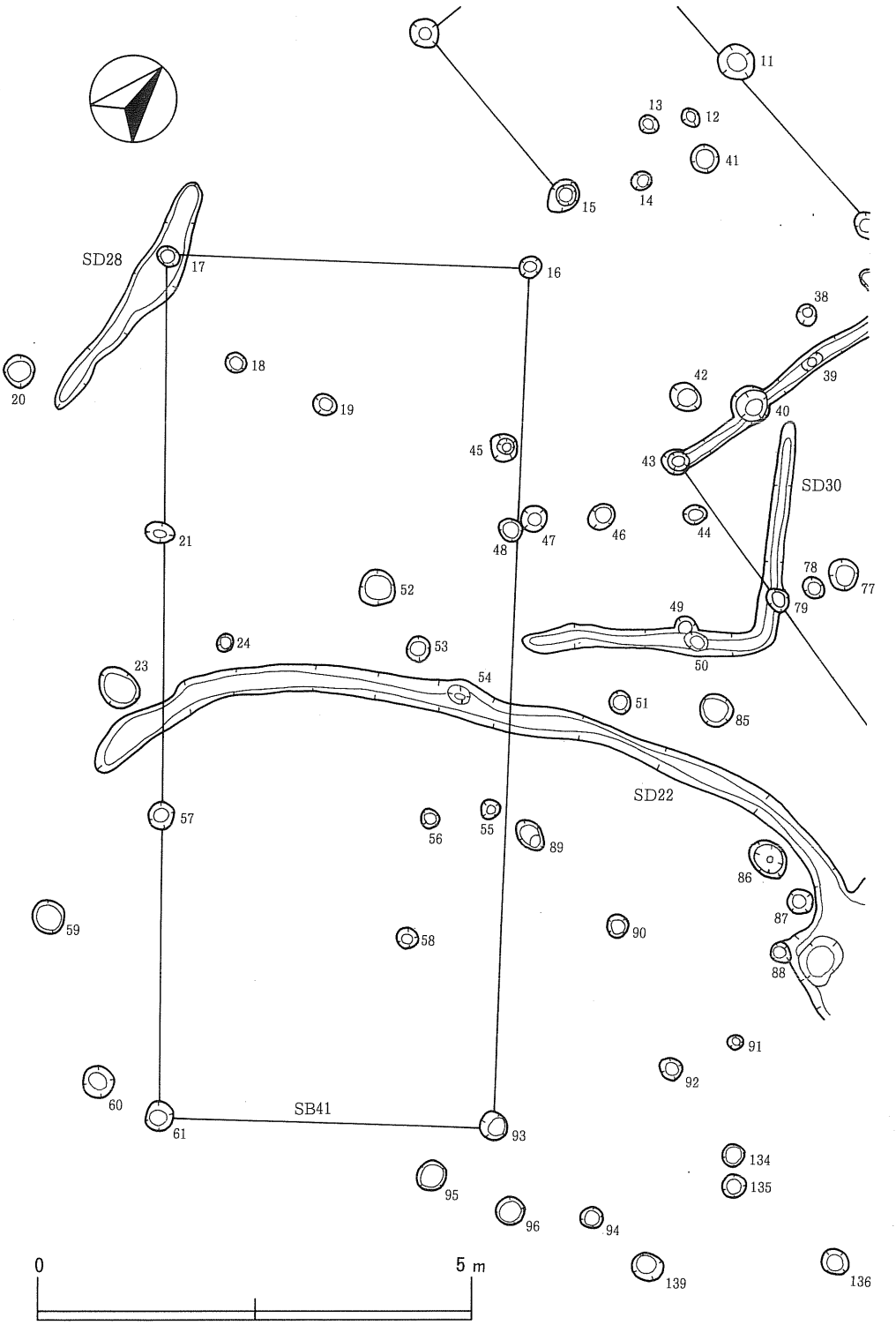
②柱穴および柱穴列（第９図）

ａ．柱穴

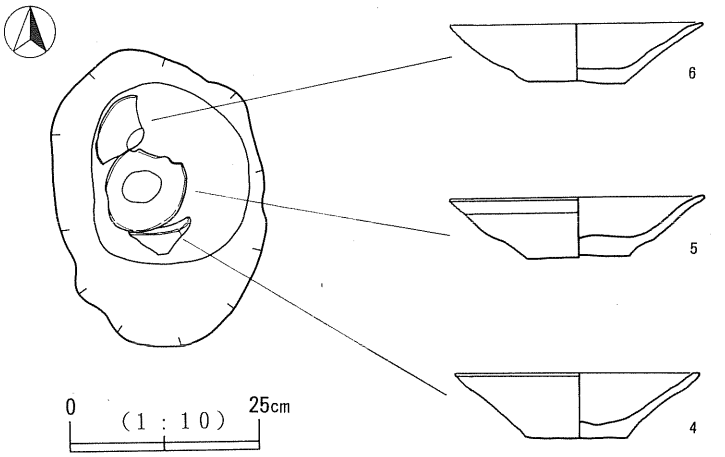
検出された295基の柱穴掘り方の平面形は、ほとんどが円形であるが希に方形に近いものもある。プラン確認面で観察した限りでは、柱痕跡の明確なものはみあたらなかった。規模等をまとめたのが第２～５表である。これによると、柱穴径20ｃｍ未満が９基（3.1%）、20～29ｃｍが142基（48.1%）、30～39ｃｍが111基（37.6%）、40ｃｍ以上が33基（11.2%）となる。柱穴径と深さの関係をみると、径が大きくなると深くなる傾向はそれほどみられず、全体の７割以上が10～20ｃｍまたは20～30ｃｍの深さである。

埋土は、黒褐色または暗褐色を呈し、炭と地山粒をほとんどのものが含む。また、焼土粒を含むものもやや多く認められる。

柱穴埋土中から赤焼土器、須恵器、鉄滓等が出土している。113とした柱穴底面近くからは、



第６図　SB41掘立柱建物跡実測図



第７図　113号柱穴実測図

赤焼土器坏３個体が出土している（第７・８図）。その出土状況は、３点とも底面中央からやや西寄りの壁際に横倒しになった状態であった。３点とも坏としては小型であり、口径10ｃｍ、底径４ｃｍ、器高2.5ｃｍ前後である。体部は開きぎみに立ち上がり、坏というより小さい皿といった感じが強い。106・225とした柱穴埋土中からは、鉄滓が出土している。

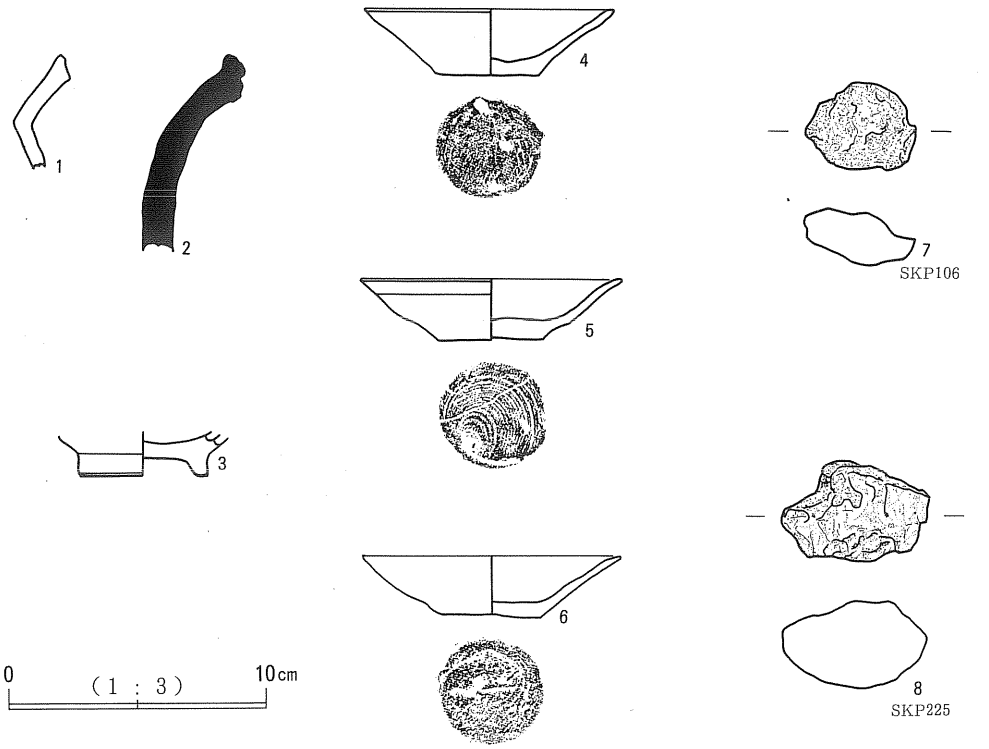
ｂ．柱穴列

前述の柱穴を検討したところ、SB41掘立柱建物跡のほかに溝状遺構と同方向に柱穴列の存在が推測された。柱穴列の方向は、SD29、SD30、SD39の各溝状遺構の３方向に大きく分けることができる。

SD29と同方向のものでは、P28－35－39－43の柱穴列がある。これは、SD29と重複しており、柱間は約1.9mである。さらにこれと直交する方向に数列が認められる。

SD30と同方向のものでは、SD30とSD38の溝状遺構に挟まれた調査区中央部分に認められる。柱間は、２ｍ前後、2.5m前後、３ｍ前後と様々である。

SD39と同方向のものでは、P260－267－273、P274－277－282があり、調査区東側に認められる。後者は、SD39と重複しており、柱間は3.7mである。



番号	出土地点	器種	成形	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土	焼成	法量 cm 口径	器高	底径
1	259号柱穴	土師器甕	ロクロ		ロクロ→ナデ	5YR7／6 橙色	5YR7／6 橙色	1～2㎜大の砂粒多量	良	－	－	－
2	19号柱穴	須恵器甕	ロクロ	口唇部に１条、口唇直下に２条の沈線	ロクロ→ナデ	N3／0 暗灰色	N5／0 灰色	緻密	良	－	－	－
3	58号柱穴	土師器坏（高台付）	ロクロ			2.5YR5／6 明赤褐色	10YR7／2 にぶい黄橙色	1～5㎜大の砂粒を含む	良	－	－	(4.8)
4	113号柱穴	赤焼土器坏	ロクロ	ロクロ→ナデ　回転糸切→ナデ	ロクロ→ナデ	7.5YR8／3 浅黄橙色	7.5YR8／3 浅黄橙色	1～2㎜大の砂粒を含む	良	9.6	2.6	4.0
5	113号柱穴	赤焼土器坏	ロクロ	ロクロ→ナデ　回転糸切	ロクロ→ナデ	2.5YR6／6 橙色	2.5YR6／6 橙色	2～3㎜大の砂粒を含む	良	10.0	2.4	4.0
6	113号柱穴	赤焼土器坏	ロクロ	ロクロ→ナデ　回転糸切→ナデ	ロクロ→ナデ	7.5YR7／4 にぶい橙色	7.5YR7／4 にぶい橙色	1～2㎜大の砂粒を含む	良	9.9	2.3	3.8

第８図　柱穴出土遺物

（２）竪穴遺構

SKI15竪穴遺構（第10図、図版５）

調査区中央部からやや西寄りのLT47・48、MA47・48グリッドに位置する。南東側のプランが不明であるが、方形基調のプランを有する。南側の一部は、木根によるものと思われる撹乱を受けている。また、西側の壁の一部は、本遺構より古い時期の溝状遺構（SD22）を壊している。土層断面Ａ－Ｂの方向の規模が375ｃｍ、それにほぼ直交する方向の規模が107～215ｃｍ

第２表　柱穴一覧表(1)

番号	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	底面標高(m)	出土遺物等	番号	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	底面標高(m)	出土遺物等
1	LQ49	34×31	31.5	25.74		40	LS49	46×40	40.5	25.79	
2	〃	24	20.7	25.88		41	〃	30	18.9	25.97	
3	〃	30	7.5	26.04		42	LS48 LS49	35×30	14.1	26.01	赤焼土器
4	〃	27×23	11.0	26.01		43	LS48	29	13.0	26.05	
5	〃	27×30	19.7	25.91	石器剥片、赤焼土器	44	〃	30×20	9.8	26.10	
6	〃	25	21.2	25.77		45	〃	30×32	13.8	25.98	
7	〃	26	13.1	25.85	赤焼土器	46	〃	26×29	13.7	26.03	
8	LR49	33×35	32.4	25.86		47	〃	31	52.9	25.61	
9	〃	25	29.0	25.86	赤焼土器	48	〃	25	13.6	26.00	
10	〃	35	49.1	25.60		49	〃	25×(22)	10.9	26.06	
11	LR49 LS49	45	40.9	25.83		50	LS48 LT48	27×20	17.8	25.99	
12	〃	23×19	11.5	26.07	赤焼土器	51	LS48	25	30.1	25.81	
13	LR49	20	10.7	26.03		52	LS47 LS48	40×44	7.8	26.02	
14	LR49 LS49	20×24	13.9	25.99		53	LS47	26	18.7	25.91	
15	LR49	34×43	27.2	25.87		54	〃	26×20	26.6	25.83	
16	LR48 LR49	23×25	18.4	25.92		55	〃	22	8.9	25.95	
17	LR48	33×28	30.6	25.74		56	〃	21	22.6	25.80	
18	〃	28×24	6.6	25.97		57	〃	30	12.5	25.68	
19	〃	26×23	10.4	25.96	須恵器(甕口縁部)	58	〃	25	17.8	25.75	赤焼土器(坏高台部)
20	LQ47 LR47	35	17.5	25.78		59	LS46	37×34	16.8	25.64	
21	LR47	33×25	10.4	25.82		60	〃	36	24.8	25.52	
22	〃	25×30	16.6	25.72		61	〃	29×35	23.2	25.50	
23	〃	50×38	10.1	25.75		62	LT50 LT51	20×23	12.7	26.27	赤焼土器
24	〃	18	7.1	25.94		63	LT50	20×25	52.0	25.83	
25	LS50	38×35	30.5	26.04		64	〃	32	30.8	26.04	赤焼土器(甕口縁)
26	〃	40	23.7	26.07		65	〃	28×34	17.3	26.22	
27	〃	30×(34)	1.6	26.15		66	〃	30	14.2	26.19	
28	〃	30×25	9.5	26.22		67	〃	20	9.8	26.22	
29	〃	20×17	19.9	26.11		68	〃	46×40	12.1	26.24	
30	〃	24×26	21.1	26.08		69	LT49 LT50	35×27	22.3	26.09	
31	LS49 LS50	21×24	15.6	26.11		70	LT49	34×24	19.7	26.07	
32	LS49	20×17	21.7	25.99		71	〃	38	43.9	25.87	赤焼土器
33	〃	30	13.7	26.08		72	〃	32	14.8	26.09	
34	〃	26	17.2	26.07		73	〃	30×24	14.9	26.09	
35	〃	26×30	47.9	25.79		74	〃	30	42.3	25.79	
36	〃	(23)×21	18.7	26.03		75	〃	22×26	11.2	26.08	赤焼土器
37	〃	(34)×24	18.3	26.04		76	LT48 LT49	43×37	20.6	26.03	
38	〃	25	15.5	26.03		77	LT48	35	30.8	25.89	
39	〃	15×26	6.2	26.11		78	〃	24	18.7	26.02	須恵器

第３表　柱穴一覧表（２）

番号	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	底面標高(m)	出土遺物等	番号	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	底面標高(m)	出土遺物等
79	LT48	26×23	15.5	26.04		118	MA49	27×33	33.1	25.96	
80	〃	35×38	30.9	25.94		119	〃	19×23	17.7	26.13	
81	〃	18×27	10.4	26.14		120	〃	40×36	19.1	26.08	赤焼土器
82	〃	38×34	37.4	25.85		121	〃	25×20	13.4	26.15	
83	〃	22	11.6	26.05		122	MA48	22	18.4	26.06	
84	〃	25	11.5	26.01		123	〃	21	11.0	26.10	
85	〃	36	38.0	25.78		124	〃	20	11.1	26.03	
86	〃	45×38	27.0	25.85		125	〃	27×30	16.8	26.02	
87	〃	30	13.0	26.00		126	〃	30×26	26.2	25.97	須恵器
88	LT47	25×19	10.7	25.97		127	〃	25	20.7	25.99	
89	LS47 LT47	38×29	16.4	25.88		128	〃	27	42.5	25.77	
90	LT47	25	32.5	25.74		129	〃	22×18	12.2	26.02	
91	〃	15	23.7	25.81		130	〃	26×22	23.8	25.78	
92	〃	25	14.5	25.88		131	〃	29×26	19.5	25.87	
93	〃	31×35	27.4	25.68		132	MA48 MB48	25	20.4	25.93	
94	〃	24	12.3	25.81		133	MA47	25	27.0	25.73	
95	LT46	34×26	25.9	25.60		134	〃	24	14.7	25.86	
96	〃	31×28	20.3	25.71		135	〃	25×29	14.5	25.85	
97	〃	35	48.0	25.34		136	〃	30	8.4	25.88	
98	MA51	27	14.5	26.16		137	〃	33×37	39.2	25.61	
99	〃	43×32	14.5	26.31		138	〃	30×34	13.9	25.84	
100	MB51	24	35.7	26.10		139	〃	39×32	19.1	25.77	
101	LT50 MA50	16×21	19.4	26.22		140	MA46 MA47	37×27	10.0	25.80	赤焼土器
102	MA50	33×28	14.2	26.16		141	MA47	25×28	16.0	25.76	赤焼土器
103	〃	51×41	36.5	26.06		142	MB51	24×30	13.3	26.35	
104	〃	27	26.6	26.14	赤焼土器	143	MA51 MB51	27	19.5	26.27	
105	〃	32	17.4	26.23		144	MB51	27×25	14.8	26.32	
106	〃	23×27	47.4	26.94	鉄滓	145	〃	31×24	27.0	26.20	
107	〃	33	17.2	26.23	赤焼土器	146	MB50	30	32.6	26.07	
108	〃	25×34	47.4	25.91	赤焼土器	147	〃	24×29	10.1	26.30	
109	〃	17	11.0	26.26		148	〃	22	36.9	26.02	
110	MA49 MA50	28	14.9	26.17		149	〃	25	18.0	26.27	
111	〃	28×25	15.0	26.20		150	MB50 MC50	27×23	8.0	26.37	
112	MA49	22	9.7	26.25		151	MB49	25	19.7	26.17	赤焼土器
113	〃	30×38	24.3	26.09	赤焼土器坏３点	152	〃	26	26.4	26.11	
114	〃	24	21.1	26.13		153	〃	30×33	19.8	26.13	
115	〃	29×26	24.3	26.09	赤焼土器	154	〃	37×23	9.5	26.24	
116	〃	25	7.7	26.23		155	〃	31×28	44.5	25.89	赤焼土器
117	〃	27	33.1	25.96		156	〃	25	29.5	25.99	

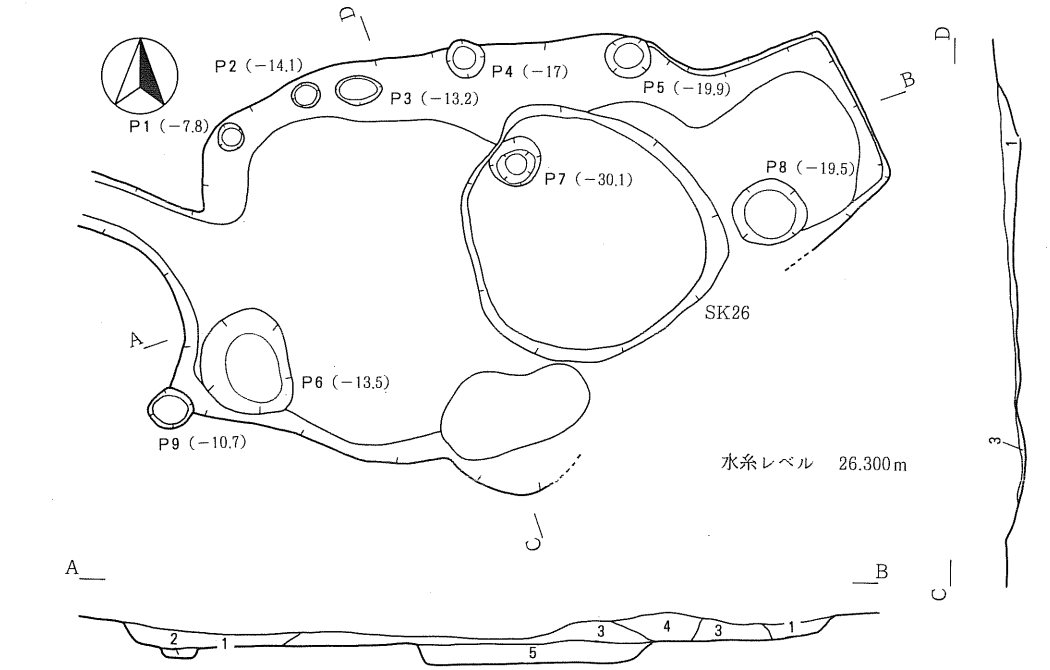
第４表　柱穴一覧表（３）

番号	検出位置	規模（cm）		底面標高(m)	出土遺物等	番号	検出位置	規模（cm）		底面標高(m)	出土遺物等
		径	深さ					径	深さ		
157	MB49	23×30	32.8	25.94		196	MC49	26	16.9	26.23	
158	〃	21×28	20.6	26.09	赤焼土器	197	〃	22	15.8	26.16	
159	MB48 MB49	36×24	20.4	26.06		198	〃	25	20.4	26.14	
160	MB48	20	56.7	25.69		199	〃	22×24	46.5	25.78	
161	〃	23	14.7	26.08	赤焼土器	200	MC48 MC49	43×25	41.6	25.91	
162	〃	30×35	18.6	26.05		201	〃	43×25	30.5	25.91	
163	〃	28×32	29.6	25.87	赤焼土器	202	MC48	25×28	24.7	25.98	
164	〃	20×40	20.7	25.96	須恵器	203	〃	15×18	17.8	26.03	
165	〃	22×34	20.6	25.93		204	〃	22	28.0	25.89	赤焼土器
166	MB47	20×33	36.0	25.69		205	〃	30×28	16.0	25.97	
167	〃	26×30	10.5	25.90		206	〃	18	14.6	26.05	
168	MB47 MC47	29×31	30.0	25.75		207	〃	30×33	22.1	25.96	
169	MB47	41	21.8	25.75	赤焼土器	208	〃	45×38	13.5	26.01	
170	〃	46×39	14.3	25.82	赤焼土器	209	〃	24×30	27.5	26.00	
171	MA47 MB47	27×25	18.1	25.74		210	〃	30	21.3	26.04	
172	MB47	26×29	17.4	25.76		211	〃	23	40.2	25.88	
173	MC51	49	16.6	26.31		212	〃	60×32	43.2	25.89	
174	〃	23×27	43.6	26.05		213	〃	48	46.2	25.87	
175	〃	30	15.3	26.33		214	MC48 MD48	45×41	47.2	25.87	
176	〃	26	14.8	26.33		215	〃	23×27	35.9	25.92	赤焼土器
177	〃	25	9.9	26.38		216	MC48	45	28.0	25.92	
178	〃	13×17	30.6	26.20		217	〃	27×37	21.3	25.89	
179	MC50	19×26	12.1	26.34		218	――	――	――	――	欠番
180	〃	25	25.6	26.18		219	MD51	25×34	7.0	26.44	
181	〃	39×28	31.4	26.14		220	MC51 MD51	28	19.0	26.33	赤焼土器
182	〃	26×29	14.3	26.31		221	MD51	27×34	19.5	26.32	
183	〃	20	13.4	26.32	赤焼土器	222	MD50	35×32	9.8	26.41	
184	〃	47×44	30.9	26.14		223	〃	17×23	42.2	26.07	赤焼土器
185	〃	48	22.4	26.23	赤焼土器	224	〃	25×28	17.9	26.33	
186	〃	32×25	15.5	26.29		225	〃	38×28	14.5	26.42	赤焼土器、鉄滓
187	〃	36×32	28.6	26.14		226	〃	33×30	30.8	26.21	
188	MC49 MC50	36×32	29.4	26.09		227	〃	31×20	10.1	26.34	
189	MC49	28×30	31.5	26.06		228	〃	23	25.5	26.20	
190	〃	28×21	32.9	26.05		229	〃	34×37	11.7	26.41	
191	〃	20×22	33.2	26.00	赤焼土器(坏底部)	230	〃	25	15.0	26.41	
192	〃	34	51.0	25.91		231	〃	32	29.0	26.30	赤焼土器
193	〃	35	31.7	26.05		232	MD49 MD50	32×20	30.2	26.18	
194	〃	28	46.4	25.95	赤焼土器	233	MD49	33×30	16.9	26.39	
195	〃	25	28.3	26.31	赤焼土器、土師器坏(内黒)	234	〃	32	13.7	26.30	

第５表　柱穴一覧表（４）

番号	検出位置	規模（cm）		底面標高(m)	出土遺物等	番号	検出位置	規模（cm）		底面標高(m)	出土遺物等
		径	深さ					径	深さ		
235	MD49	26	17.9	26.25	赤焼土器、土師器(内黒)	267	ME49	26	32.8	26.30	
236	〃	28×32	36.2	26.09		268	〃	22	22.9	26.36	須恵器
237	〃	49	26.4	26.26	赤焼土器	269	〃	24×20	22.8	26.33	
238	〃	27×34	43.6	26.06		270	〃	33×21	19.3	26.37	
239	〃	28×30	36.1	26.15	赤焼土器	271	ME49 MF49	21×24	15.8	26.48	
240	〃	27	16.3	26.35		272	ME48	29×25	38.2	26.06	
241	〃	28×22	17.4	26.25		273	〃	25×22	27.0	26.15	
242	MD48	38×35	35.7	26.03		274	MF52	28	15.0	26.40	
243	〃	33×47	14.3	26.24		275	MF51	23	13.2	26.44	
244	〃	27×24	19.8	26.19	赤焼土器	276	〃	20	10.5	26.48	
245	〃	31×20	33.7	25.93		277	〃	24	26.7	26.43	
246	〃	28×25	19.1	25.95		278	MF51 MG51	20	19.6	26.62	
247	MD47	39×36	19.0	26.03	赤焼土器	279	MF51	19	7.6	26.61	
248	〃	47×44	18.5	25.92		280	MF50	20	16.1	26.55	
249	〃	28	19.2	25.89		281	〃	33	32.8	26.43	
250	ME51	37×27	12.6	26.44		282	〃	23	31.1	26.52	
251	〃	24	13.8	26.42		283	——	——	——	——	欠番
252	〃	23×25	25.8	26.30	赤焼土器	284	MF49	25	21.5	26.43	赤焼土器
253	MD50	20	24.4	26.33		285	〃	25	33.4	26.37	赤焼土器
254	ME50	30	42.8	26.23		286	MG52	46×35	15.0	26.56	
255	〃	29×35	28.7	26.26	赤焼土器	287	〃	18	16.7	26.62	
256	〃	20×23	54.0	26.10	赤焼土器	288	〃	30×19	28.5	26.49	
257	〃	35×32	21.9	26.46		289	〃	23×18	10.0	26.71	
258	〃	25×32	10.7	26.56		290	MG51	37×44	21.7	26.70	
259	〃	45×35	56.6	26.04	赤焼土器(甕口縁部)	291	〃	32×26	14.3	26.75	
260	〃	30	25.4	26.41		292	〃	23×20	11.6	26.85	
261	ME49	22	19.5	26.41	赤焼土器	293	〃	28×36	23.2	26.72	赤焼土器
262	〃	25	15.5	26.46		294	MG50	17	10.2	26.76	
263	〃	36×18	26.5	26.34	赤焼土器	295	〃	25×20	19.0	26.79	
264	〃	24	21.5	26.43	赤焼土器、土師器(内黒)	296	〃	23	19.1	26.69	
265	〃	25×30	14.6	26.51		297	〃	32×22	14.7	26.76	
266	——	——	——	——	欠番	298	MG49	42×30	25.5	26.60	赤焼土器

第９図　柱穴・柱穴列配置図



1.黒褐色（10YR2／2）　炭、地山粒、地山ブロック混。
2.黒褐色（10YR2／3）　焼土粒、地山粒混。SD22埋土。
3.黄褐色（10YR5／6）　地山ブロック多量。木根によるカクラン。
4.暗褐色（10YR3／3）　地山粒、地山ブロック混。
5.褐　色（10YR4／4）　地山ブロック多量混。しまり良。

0　（1：40）　2 m

第10図　SKI15竪穴遺構・SK26土坑実測図

である。壁高は、地山が北から南へ低くなっているため南側が０～９ｃｍ、北側で13～17ｃｍである。床面は、凹凸が著しい。中央やや東寄りの床面は、地山と若干異なる土が円形に観察されたが、これは本遺構より古い時期の土坑（SK26）である。埋土中に地山ブロックを多く含むことから、本遺構をつくる際に埋められた可能性もある。柱穴は、Ｐ1～Ｐ9まで図中に示したが、Ｐ1とＰ9はプラン確認時に本遺構より新しいことが判明しているので、本遺構には伴わない。Ｐ2～Ｐ5については、Ｐ1とほぼ同じような規模であることから、本遺構に伴う可能性は低いと推測される。Ｐ6～Ｐ8は、床面を精査している段階で検出され、Ｐ7はSK26の埋土を掘り込んでいることから、この３基の柱穴については本遺構に伴う可能性が高いと考えられる。埋土の２層はSD22の埋土、５層はSK26のものである。

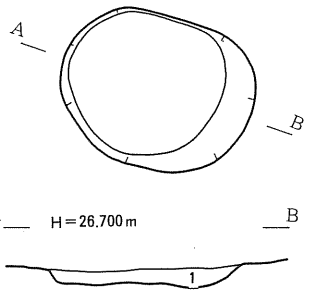
出土遺物は、赤焼土器の坏と甕の破片、須恵器の坏と甕の破片である。

（３）土　坑

SK02土坑（第11図、図版６）

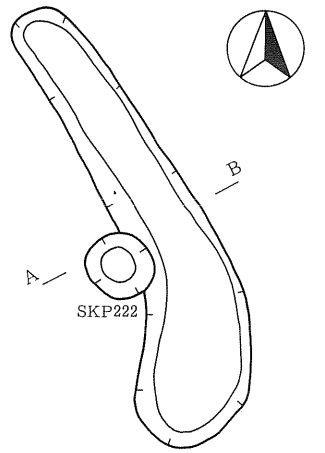
MD51グリッドで楕円形に近いプランを検出した。土層断面Ａ－Ｂの方向での規模が103ｃｍ、

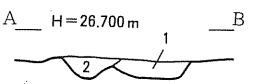
SK02



1．褐色（10YR4／4）　炭化物、地山粒混。
しまり良。

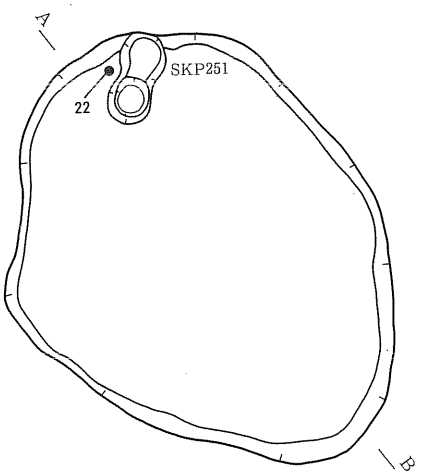
SK03

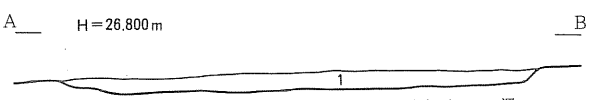




1．暗褐色（10YR3／3）　炭化物、地山ブロック混。
しまり良。
2．黒褐色（10YR2／3）　炭化物、地山粒混。
SKP222埋土。

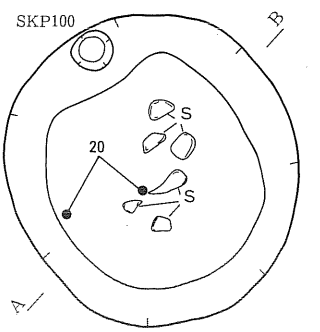
SK04

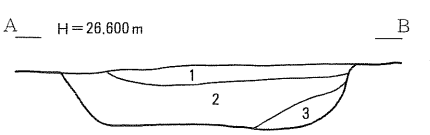




1．暗褐色（10YR3／3）　炭化物、地山粒、地山ブロック混。
堅くしまっている。

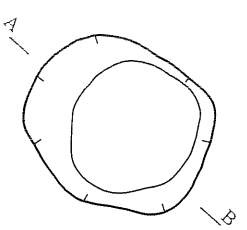
SK07

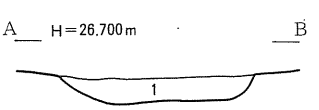




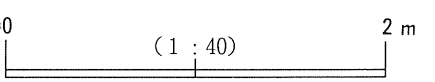
1．（10YR3／2）　炭化物、焼土粒、地山粒混。
2．（10YR2／3）　炭化物、焼土粒、地山ブロック混。
3．（10YR3／3）　焼土粒混。しまり良。粘性あり。

SK05





1．暗褐色（10YR3／3）　炭化物、地山ブロック混。しまり良。



第11図　SK02・03・04・05・07土坑実測図

それとほぼ直交する方向で80ｃｍ、確認面からの深さが10～13ｃｍである。やや凹凸のある底面から南東側の壁は比較的ゆるやかに立上がる。埋土は、炭化物を少量含み地山土を主体とする。遺物は、出土しなかった。

SK03土坑（第11図）

MD50・51グリッドにまたがって検出された。平面形は、溝状遺構に近いが、調査区で検出された14条の溝状遺構と比較して幅があり、その幅も一定していないことから土坑として扱うこととした。長さ246ｃｍ、幅33～58ｃｍ、確認面からの深さ９～14ｃｍである。本遺構埋没後にSKP222が掘られている。出土遺物は、赤焼土器坏と甕の破片である。

SK04土坑（第11・19図、図版６・13）

SK03土坑の東隣に不整円形のプランを検出した。北西から南東方向に長く250ｃｍ、それとほぼ直交する方向で180～190ｃｍ、確認面からの深さ２～12ｃｍである。底面は、非常にデコボコしている。SKP251・252・253と重複しているが、本遺構底面を精査中にこれらを検出しており、本遺構が新しいものと推測される。図化できた遺物は１点のみであるが、赤焼土器および須恵器の坏と甕の破片が出土している。22は、赤焼土器甕胴部破片である。叩き目と当て具痕は、破片の下半に認められる。

SK05土坑（第11図、図版６）

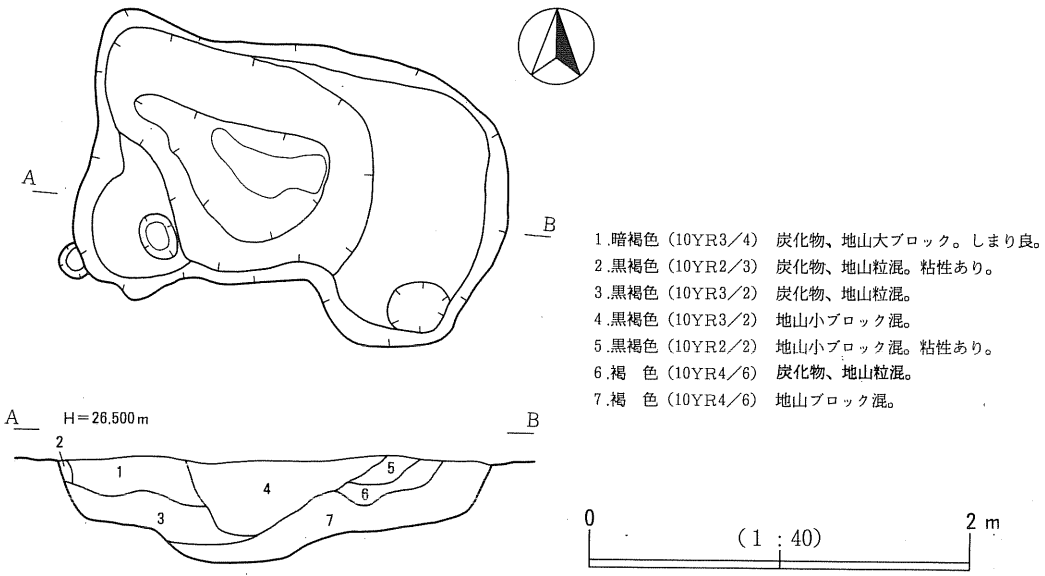
MD50グリッドで隅丸方形に近いプランを検出した。その規模は、87ｃｍ×100ｃｍ、確認面からの深さ15～18ｃｍである。底面は比較的平坦で、北西側壁は底面からゆるく立上がる。出土遺物は、赤焼土器坏の破片である。

SK07土坑（第11・18・20図、図版６・12・15）

MB51グリッド杭の西側に、ほぼ円形の黒褐色プランを検出した。直径155～164ｃｍ、確認面からの深さ27～37ｃｍである。底面には、やや凹凸がみられる。北東側の壁は、ゆるく内湾ぎみに立上がる。本遺構とSKP100とは重複しているが、新旧関係はとらえることができなかった。埋土は３層に分層され、底面に近い２層下部から10～20ｃｍの角礫が出土している。出土遺物は、土師器、赤焼土器、須恵器、鉄滓であるが、図化できたのは土師器高台付坏と鉄滓である。20は、内面が黒色処理された土師器高台付坏である。非常に平滑に調整がなされているが、ミガキは認められなかった。体部は丸味をもって立ち上がり、口縁部が外反する。

SK08土坑（第12・13・17～20図、図版７・12～14）

LT50グリッドで不整形プランを確認し掘りすすめた結果、不整方形プランの土坑であることがわかった。平面上の規模は、東西方向220ｃｍ、南北方向124～145ｃｍである。掘り込みは、東側と南西側に段をもち、東側が18～39ｃｍ、南西側が29～37ｃｍの深さがある。中央部は61～63ｃｍと最大になる。埋土は、７層に分層された。１・３・５・６の各層の堆積に対して、

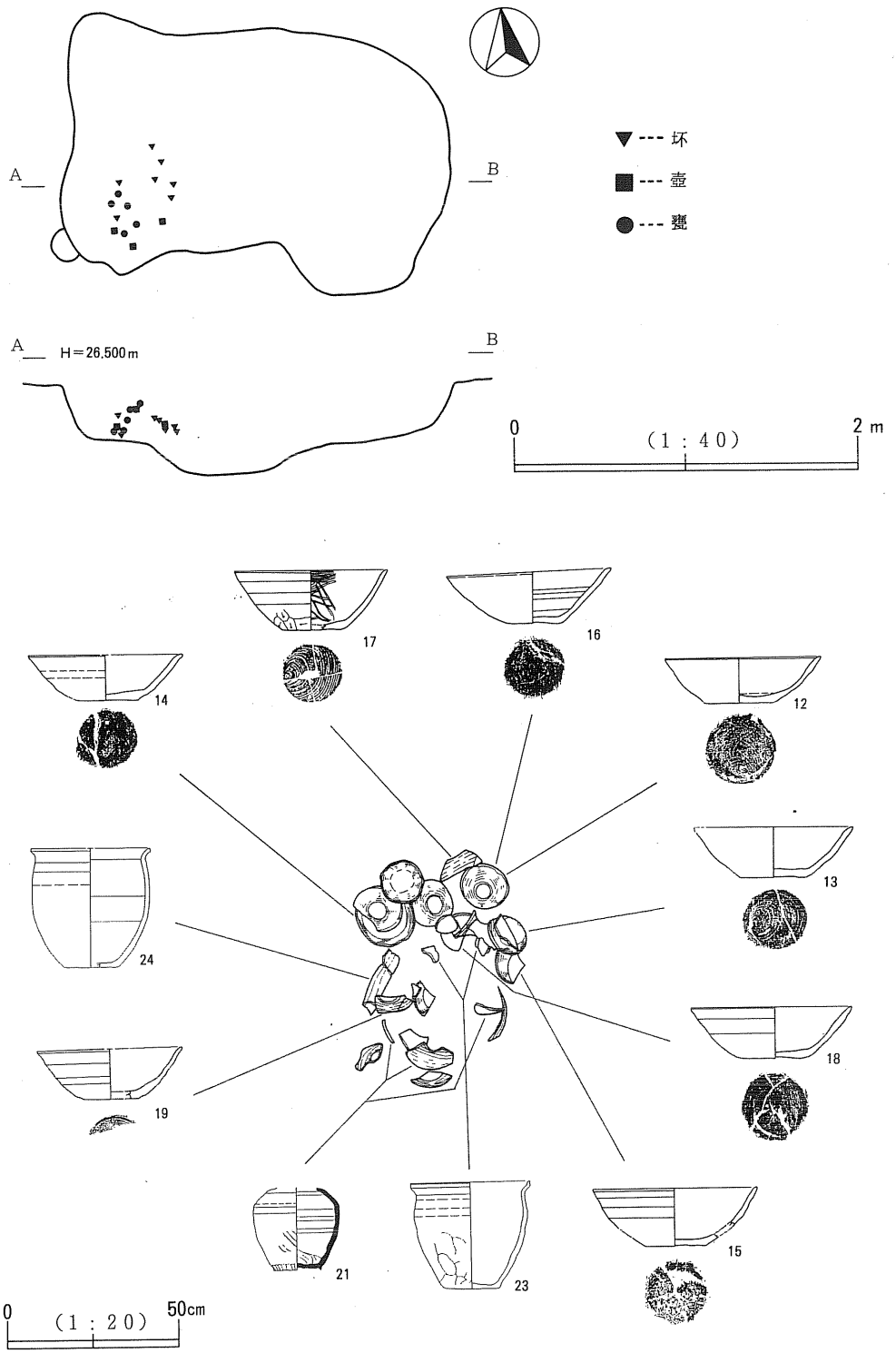


第12図　SK08土坑実測図

４層の堆積状況は不自然な印象を受ける。遺物は、１及び３層中から主に出土しており、平面的には不整方形プランの南西隅にほとんどの遺物が集中している。その内訳は、赤焼土器坏12点、土師器坏１点、土師器甕２点、須恵器壷１点であるが、赤焼土器坏は非常に脆く、実際に図化できたのは12点のうち７点である。甕・壷等の比較的大型のものは、割れてしまっていたが、坏のいくつかは土坑に置かれたままの状態を保っていたものと推測される。それは、坏が数枚重ねられて正位または背位で出土していることから窺うことができる。12と16は、重なった状態で背位で、14は図化が不可能だった２点と重なり正位で出土している。17は、16のすぐ北側に横倒しの状態で出土している。７点の坏のうち、17が内面黒色処理の土師器であることを除くと、ロクロにより成形され、体部が丸味をもって立ち上がり口縁部がやや外反するという特徴をもつ。21は、底部周縁の粘土を削り、低い高台をつくり出している。23は、器表面の剥落がすすみ、煤が付着している。24の器表面にも煤が付着しているが、剥落はわずかである。底部全面に砂粒の付着した痕跡が認められる。

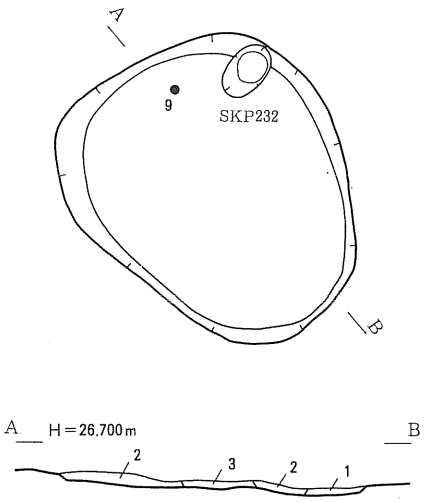
SK11土坑（第14・17図、図版８）

MD49・50グリッドで不整円形プランを検出した。第14図中Ａ－Ｂ方向の規模が166ｃｍ、それとほぼ直交する方向で90～140ｃｍ、確認面からの深さ２～11ｃｍである。底面には凹凸がみられる。SKP232と重複しており、本遺構検出時に柱穴プランはみられず、本遺構底面を精査中にSKP232が検出されたことから、本遺構のほうがより新しい時期のものと推測される。出土遺物は、赤焼土器坏・甕であるが、図化できたものは９の坏のみであった。甕の小破片に



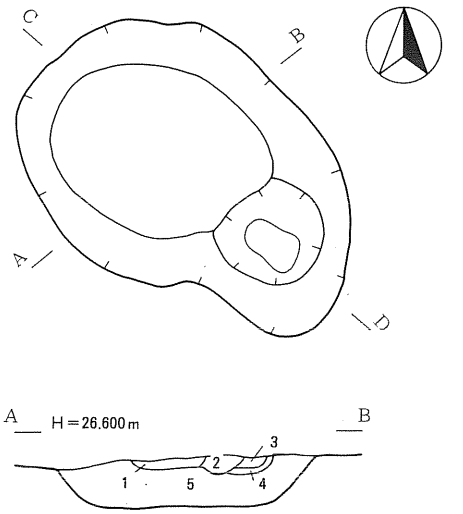
第13図　SK08土坑遺物出土状況図

SK11



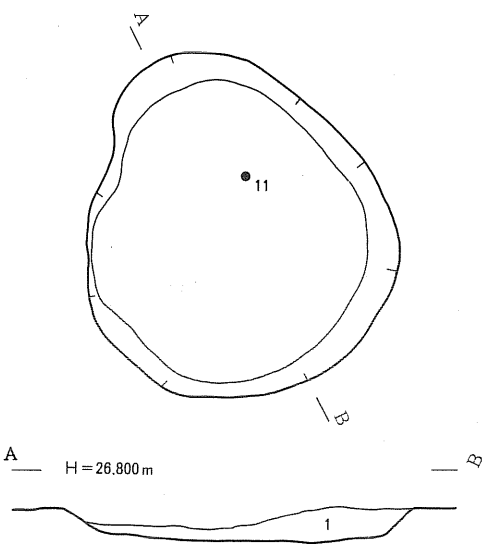
1．明黄褐色(10YR6／6)　焼土粒混。
2．黒 褐 色(10YR2／3)　焼土粒、炭化物、地山ブロック混。しまり良。
3．黄 褐 色(10YR7／8)　地山ブロック。

SK12



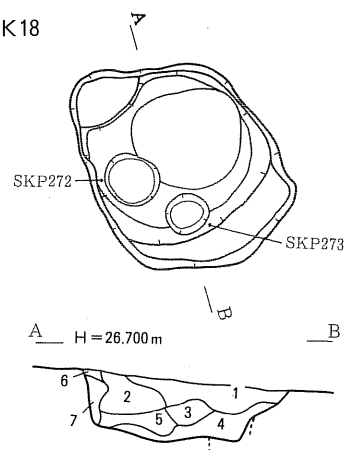
1．黒褐色(10YR2／3)　炭化物、焼土粒、地山粒混。
2．暗褐色(10YR4／4)　焼土粒、焼土ブロック混。
3．褐　色(10YR4／4)　地山粒、焼土粒混。
4．黒褐色(10YR2／2)　焼土粒混。
5．暗褐色(10YR3／4)　地山粒、地山ブロック、焼土粒混。しまり非常によい。

SK13



1．暗褐色(10YR3／4)　炭化物、焼土粒、地山ブロック混。しまり良。

SK18



1．にぶい黄褐色(10YR4／3)　地山粒、炭化物混。
2．にぶい黄褐色(10YR5／4)　地山粒、炭化物混。
3．黒 褐 色(10YR3／2)　地山粒、炭化物混。
4．褐　　色(10YR4／6)　地山粒、地山ブロック混。粘性強。
5．暗 褐 色(10YR3／3)　地山粒、炭化物混。
6．黄 褐 色(10YR5／6)　地山粒混。
7．明黄褐色(10YR6／8)

0　(1：40)　2 m

第14図　SK11・12・13・18土坑実測図

叩き目のあるものが認められる。

SK12土坑（第14・17図、図版８）

MC49・50、MD49・50グリッドでプランを検出したときは、約２ｍ×２ｍの方形プランを有する竪穴遺構または土坑と推測されたが、調査が進むにつれ不整円形の土坑と判明した。第14図中Ｃ－Ｄ方向が約200ｃｍ、Ａ－Ｂ方向が135ｃｍの大きさがあり、確認面からの深さが26ｃｍである。底面の南東側は一段低くなっており、その規模は径50～54ｃｍ、確認面からの深さ48ｃｍである。出土遺物は、赤焼土器坏・甕、須恵器坏・甕であるが、10のみ図を掲載した。内面に放射状に「火だすき」が認められる。

SK13土坑（第14・17図、図版８）

ME49グリッドで不整円形プランを検出した。規模は、平面図Ａ－Ｂ方向が186ｃｍ、それとほぼ直交する方向が166ｃｍ、確認面からの深さが12～18ｃｍである。遺物は、赤焼土器坏・甕、須恵器坏であり、埋土の中位から出土している。11の赤焼土器坏底部破片のみ図を掲載できた。器表面の磨滅がみられる。

SK14(A)(B)土坑（第15図、図版８）

当初、MC48・49グリッドで約２ｍ×３ｍの略方形プランを確認し、調査を進めたところ、土坑（SK14(A)・(B)、SK20）と柱穴がまとまって検出された。

SK14(A)土坑は、不整形プランを有し、北西－南東方向が143ｃｍ、北東－南西方向が76ｃｍ。確認面からの深さは、13～24ｃｍである。本遺構の埋土は５層に分けられたが、第５層は黒褐色土と地山ブロックが混入した層となっており、人為的に埋められたものと推測される。本遺構と重複しているSKP199・200・201については、第５層を取り除いてから検出していることから本遺構のほうが新しい。

SK14(B)土坑は、不整形プランを有し、東西方向89ｃｍ、南北方向70～75ｃｍ、確認面からの深さは37～41ｃｍである。

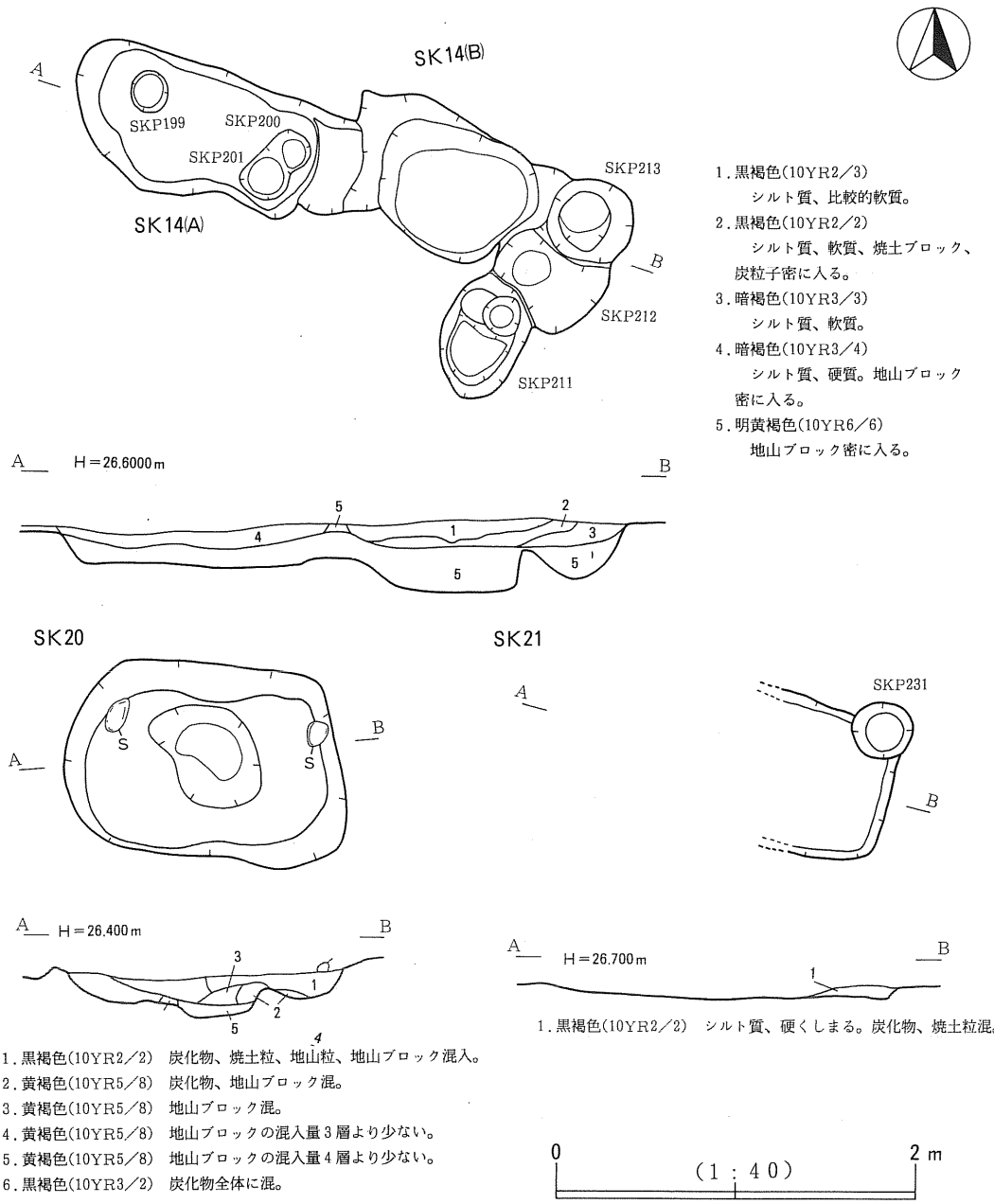
(A)、(B)及び南東側にある柱穴（SKP213）との関係であるが、いずれにも第５層が最下層に観察されることから、時期的な差はほとんどないものと思われる。

出土遺物は、赤焼土器坏・甕、須恵器甕であるが、小破片のため図を掲載できなかった。

SK18土坑（第14図、図版８）

ME48・49グリッドで土の乾燥の度合いが異なる部分を掘り下げたところ、不整形プランの土坑であることがわかった。北西－南東方向で129ｃｍ、それと直交する方向で93～98ｃｍ、深さ30～39ｃｍの規模である。北西側と南東側に段がみられる。SKP272・273と重複しており、本遺構との新旧関係は不明である。遺物は、赤焼土器坏、須恵器壷と思われる破片が出土している。

SK14(A)(B)



1．黒褐色(10YR2／3)
　シルト質、比較的軟質。
2．黒褐色(10YR2／2)
　シルト質、軟質、焼土ブロック、炭粒子密に入る。
3．暗褐色(10YR3／3)
　シルト質、軟質。
4．暗褐色(10YR3／4)
　シルト質、硬質。地山ブロック密に入る。
5．明黄褐色(10YR6／6)
　地山ブロック密に入る。

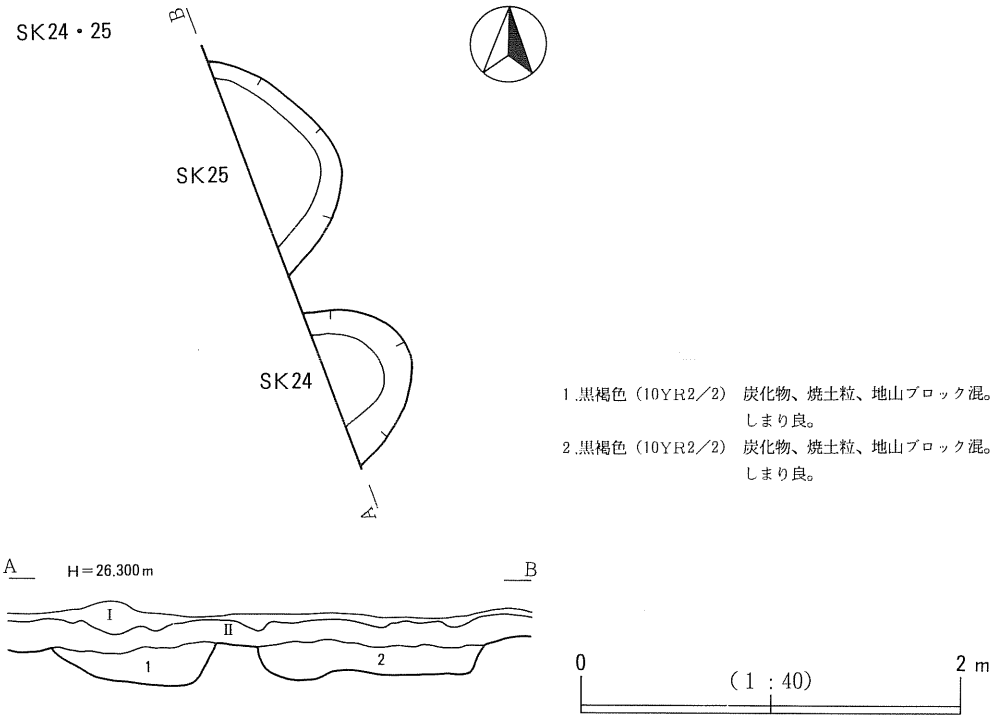
1．黒褐色(10YR2／2)　シルト質、硬くしまる。炭化物、焼土粒混。

1．黒褐色(10YR2／2)　炭化物、焼土粒、地山粒、地山ブロック混入。
2．黄褐色(10YR5／8)　炭化物、地山ブロック混。
3．黄褐色(10YR5／8)　地山ブロック混。
4．黄褐色(10YR5／8)　地山ブロックの混入量３層より少ない。
5．黄褐色(10YR5／8)　地山ブロックの混入量４層より少ない。
6．黒褐色(10YR3／2)　炭化物全体に混。

第15図　SK14(A)(B)・20・21 土坑実測図

SK20土坑（第15図、図版９）

SK14土坑と同様に略方形と思われたプランを調査中に、MC48グリッドで方形プランを検出



第16図　SK24・25土坑実測図

した。規模は、154ｃｍ×110ｃｍ、深さ24～28ｃｍである。土坑中央部が一段くぼんでおり、確認面からの深さは32～35ｃｍである。埋土は、６層に分けられたが、どの層にも地山ブロックが混入しており、人為的に埋められたものと推測される。遺物は、赤焼土器坏・甕、須恵器坏・甕が出土している。

SK21土坑（第15図、図版９）

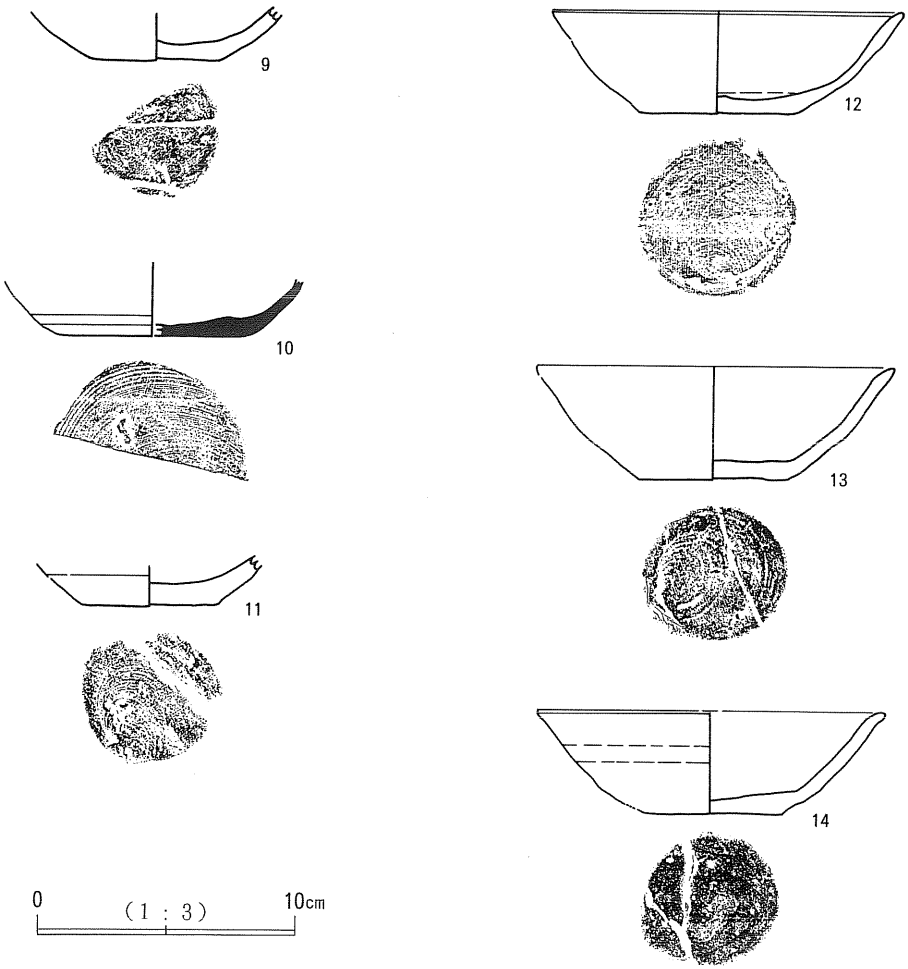
MD50グリッドでプランの一部を検出したが、木の根による撹乱を受け西側プランを検出することができなかった。全体のプランは、長方形に近いものと推定される。規模は、短軸方向84ｃｍ、確認面からの深さ５～７ｃｍである。なお、検出することができた長軸方向の長さ（現存長）は75ｃｍである。出土遺物は、赤焼土器坏の口縁部破片１点である。

SK24土坑（第16図、図版９）

LR47、LQ47両グリッド境界線上に円形と推定されるプランを検出した。本遺構の西側プランは、調査区外にある。確認される最大径は86ｃｍ、確認面からの深さは13～21ｃｍである。遺物は、赤焼土器坏の破片と須恵器坏高台部破片各１点が埋土下位から出土している。

SK25土坑（第16図、図版９）

LQ47グリッドで隅丸方形と推定されるプランを検出した。本遺構の南隣にSK24土坑がある。また、本遺構の西側は調査区外にある。推定される一辺の長さは118ｃｍ、確認面からの深さ



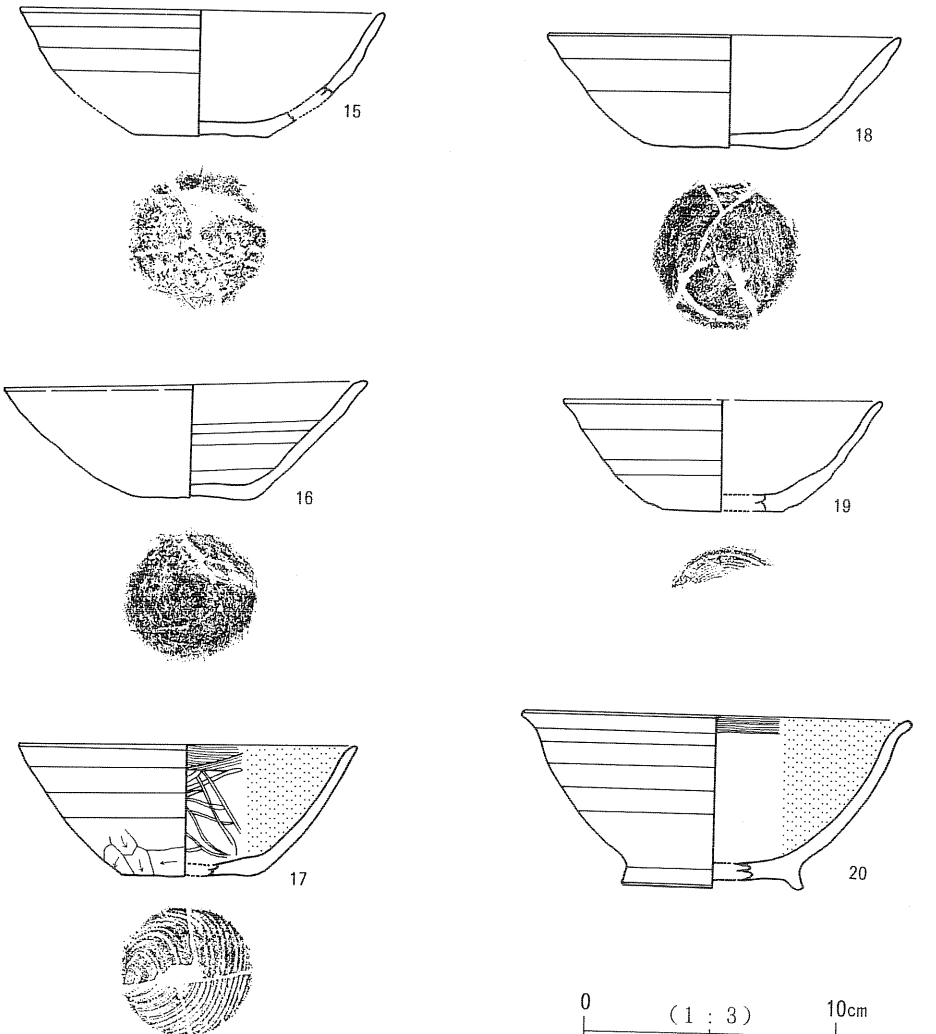
番号	出土地点	器　種	成　形	調　　整	外　面 内　面	色　　調	外　面 内　面	胎　土	焼成	法　量　cm 口径	器高	底径
9	SK 11	赤焼土器坏	ロクロ	回転糸切り		5YR6／6　橙色 10YR8／3　浅黄橙色		1～2㎜大の赤色粒子含	良	－	－	(5.5)
10	SK 12	須恵器坏	ロクロ	回転糸切り		N4／0　灰色 N4／0　灰色		緻　密	良	－	－	7.6
11	SK 13	赤焼土器坏	ロクロ	回転糸切り		10YR8／3　浅黄橙色 10YR8／3　浅黄橙色		1～2㎜大の赤色粒子含	良	－	－	5.3
12	SK 08	赤焼土器坏	ロクロ	回転糸切り		7.5YR7／4　にぶい橙色 7.5YR7／4　にぶい橙色		1～3㎜大の赤色粒子含	良	(13.3)	4.0	5.8
13	SK 08	赤焼土器坏	ロクロ	回転糸切り		7.5YR7／4　にぶい褐色 7.5YR7／4　にぶい褐色		1～3㎜大の赤色粒子含	良	(13.7)	5.4	5.8
14	SK 08	赤焼土器坏	ロクロ			7.5YR8／4　浅黄橙色 7.5YR8／1　浅黄橙色		1～2㎜大の赤色粒子含	良	13.8	4.0	5.3

第17図　土坑出土遺物（１）

は15～20ｃｍである。埋土中から自然石が数点出土したのみであった。

SK26土坑（第10図、図版９）

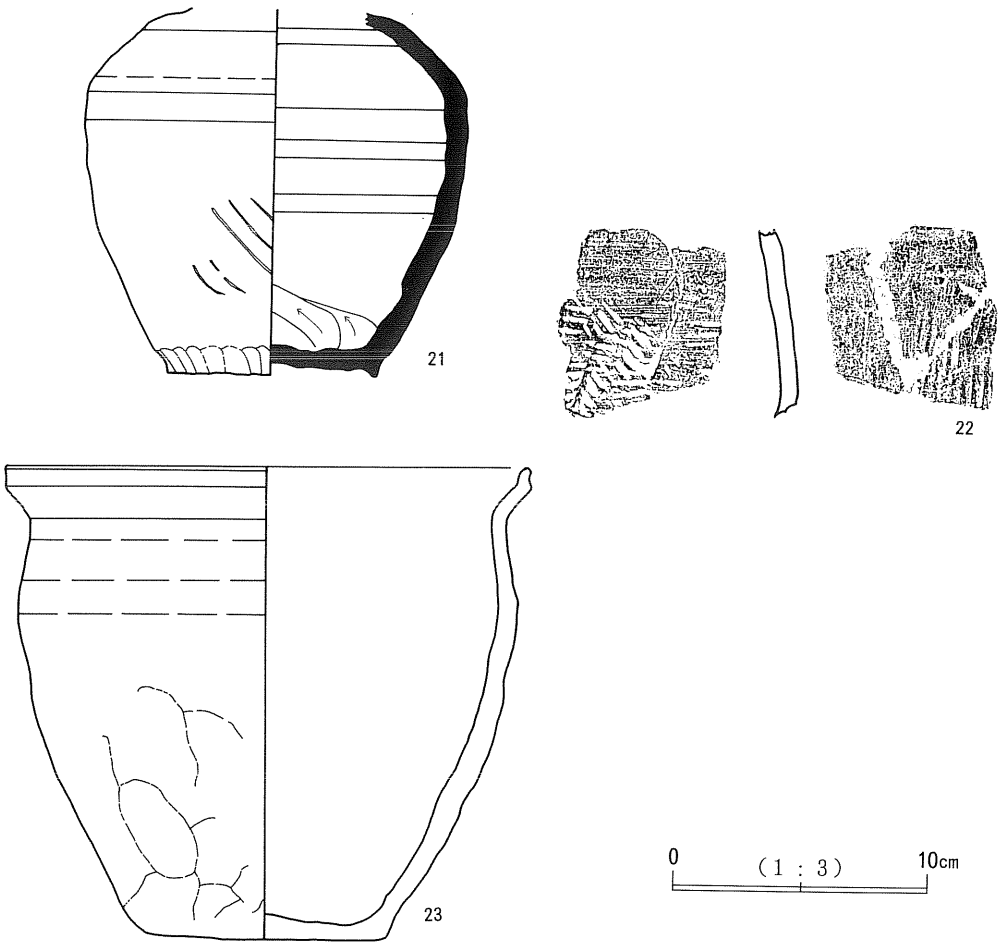
MA48グリッドでSKI15竪穴遺構を調査中にほぼ円形のプランを検出した。径130～137ｃｍ、



番号	出土地点	器種	成形	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土	焼成	法量 cm 口径	器高	底径
15	SK 08	赤焼土器坏	ロクロ	回転糸切り		7.5YR8／4 浅黄橙色	7.5YR8／4 浅黄橙色	1～3㎜大の赤色粒子含	良	(14.3)	(5.0)	5.1
16	SK 08	赤焼土器坏	ロクロ	回転糸切り		7.5YR8／4 浅黄橙色	7.5YR7／4 にぶい橙色	1～4㎜大の砂粒含	良	14.1	4.5	4.3
17	SK 08	土師器坏	ロクロ	ロクロ→体部下半にケズリ、回転糸切り	黒色処理、ミガキ	7.5YR7／4 にぶい橙色	N1.5／0 黒色	2㎜前後の砂粒含む	良	13.2	5.2	5.1
18	SK 08	赤焼土器坏	ロクロ	回転糸切り		7.5YR8／3 浅黄橙色	7.5YR8／3 浅黄橙色	1～3㎜大の赤色粒子含	良	13.8	4.5	5.4
19	SK 08	赤焼土器坏	ロクロ	回転糸切り	ロクロ→ナデ	7.5YR6／3 にぶい褐色	7.5YR6／3 にぶい褐色	1～2㎜大の赤色粒子含	良	(12.4)	4.4	(4.8)
20	SK 07	土師器坏（高台付）	ロクロ	ロクロ→ナデ	黒色処理	7.5YR7／4 にぶい黄橙色	7.5YR1.5／1 黒色	緻密	良	(15.1)	6.9	(7.0)

第18図　土坑出土遺物（２）

地山上面からの深さ26ｃｍである。埋土は、しまりが良く、地山ブロックを多量に含む。遺物は、出土しなかった。



番号	出土地点	器　種	成　形	調　　整	外　面 内　面	色　調	外　面 内　面	胎　土	焼成	法　量　cm 口径	器高	底径
21	SK 08	須恵器壺	ロクロ	ロクロ→カキ目、底部付近ケズリ		N3／0	暗褐色	1～2㎜大の砂粒含む	良	－	－	8.2
				ロクロ→ナデ		N5／0	灰色					
22	SK 04	赤焼土器甕	ロクロ	ロクロ→叩き目		7.5YR7／4	にぶい橙色	1㎜大の砂粒含む	良	－	－	－
				ロクロ→当て具痕		5YR6／6	橙色					
23	SK 08	土師器甕	ロクロ	ロクロ→ケズリ→ナデ		7.5YR8／4～8／6浅黄橙色		1～4㎜大の砂粒含む	良	20.6	18.8	9.7
				ロクロ→ナデ		5YR7／6	橙色					

第19図　土坑出土遺物（３）

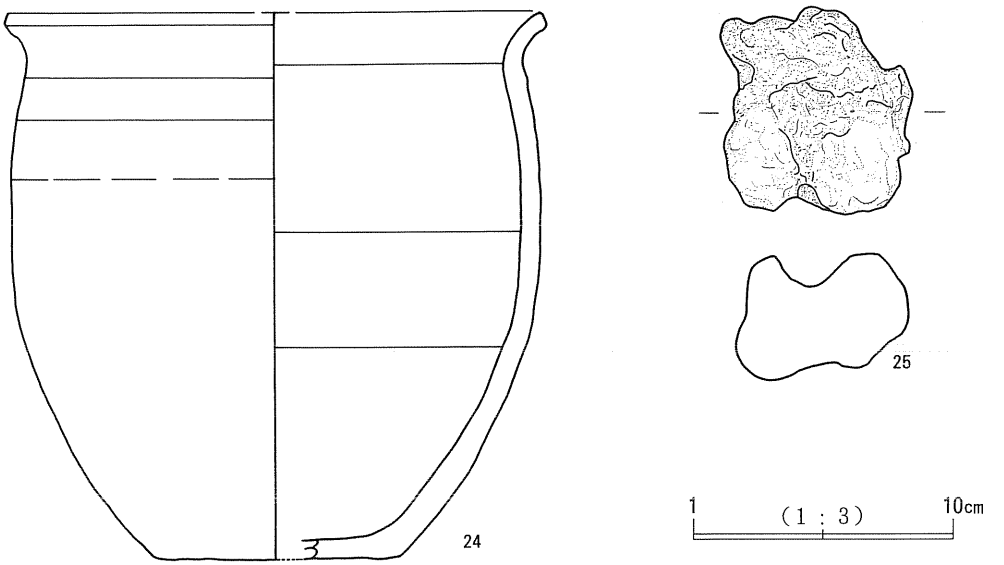
（４）溝状遺構

SD22溝状遺構（第５図、図版10）

SKI15竪穴遺構の西側のLR47、LS47・48、LT48グリッドに弓なりになったプランを検出した。一部は、SKI15竪穴遺構と重複しており、本遺構が古い。全長10m40ｃｍ、幅28～45ｃｍ、深さ８～18ｃｍである。出土遺物は、赤焼土器坏・甕である。

SD27溝状遺構（第５図）

LQ49グリッドにほぼ東西に伸びるプランを検出した。全長155ｃｍ、幅14～20ｃｍ、深さ７



番号	出土地点	器種	成形	調整	外面	色調	外面	胎土	焼成	法量 cm		
					内面		内面			口径	器高	底径
24	SK 08	土師器甕（砂底）	ロクロ	ロクロ→底部付近ケズリ→体部下半ナデ		7.5YR6／3　にぶい褐色		1～3㎜大の砂粒含む	良	20.4	21.1	9.7
				ロクロ→ナデ		7.5YR5／3　にぶい褐色						

第20図　土坑出土遺物（４）

～10ｃｍである。断面形は、鍋底形である。遺物は出土しなかった。

SD28溝状遺構（第５図）

LR48・49グリッドにほぼ南北に伸びるプランを検出した。プランの中央部がやや膨らむ。全長302ｃｍ、幅19～52ｃｍ、深さ４～16.1ｃｍである。SB41建物跡のＰ17と重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物は、赤焼土器細片である。

SD29溝状遺構（第５図、図版10）

LS48・49グリッドにほぼ南北に伸びるプランを検出した。全長404ｃｍ、幅16～20ｃｍ、深さ5.5～10.1ｃｍである。Ｐ28、Ｐ35、Ｐ39、Ｐ43からなる柱穴列の一部と重複している。遺物は、出土しなかった。

SD30溝状遺構（第５図、図版10）

LS48・49、LT48グリッドに鉤形（Ｌ字状）のプランを検出した。全長530ｃｍ、幅17～28ｃｍ、深さ3.3～9.4ｃｍである。断面形は、逆台形を呈する。Ｐ49、Ｐ50、Ｐ79と重複しているが、新旧関係は不明である。遺物は、出土しなかった。

SD31溝状遺構（第５図）

MA48・49グリッドにプランを検出した。ほぼ南北方向に伸びている。全長137ｃｍ、幅16～25ｃｍ、深さ2.6～5.9ｃｍである。遺物は、出土しなかった。

SD32溝状遺構（第５図）

MA48グリッドでSKI15竪穴遺構の南東側に隣合うように位置している。全長190ｃｍ、幅20～50ｃｍ、深さ4.4～7.5ｃｍである。遺物は、出土しなかった。

SD33溝状遺構（第５図）

MA46・47グリッドに鉤形（Ｌ字状）のプランを検出した。南側のプランは、傾斜していく地形に吸収されてしまっている。全長280ｃｍ以上、幅25～28ｃｍ、深さ7.5～11ｃｍである。遺物は、出土しなかった。

SD34溝状遺構（第５図）

MB48・49グリッドでプランを検出した。北東－南西方向に断続している。全長206ｃｍ、幅14～23ｃｍ、深さ3.8～5.8ｃｍである。遺物は、出土しなかった。

SD35溝状遺構（第５図、図版11）

MC49グリッドに北西－南東方向に伸びるプランを検出した。全長229ｃｍ、幅14～18ｃｍ、深さ5.9～12.5ｃｍである。断面形は、逆台形である。遺物は、出土しなかった。

SD36溝状遺構（第５図、図版11）

MC49、MD49グリッドにプランを検出した。SD35溝状遺構の北隣に平行するように位置する。全長257ｃｍ、幅13～20ｃｍ、深さ4.9～14.1ｃｍである。遺物は、出土しなかった。

SD37溝状遺構（第５図）

MD49グリッドに北西－南東方向に伸びるプランを検出した。全長90ｃｍ、幅15～27ｃｍ、深さ1.5～5.8ｃｍである。遺物は、出土しなかった。

SD38溝状遺構（第５図、図版11）

MD48・49グリッドに鉤形（Ｌ字状）のプランを検出した。SD30溝状遺構と同じような方向性を有する。全長520ｃｍ、幅17～29ｃｍ、深さ5.2～8.3ｃｍである。Ｐ235、Ｐ236、Ｐ243、Ｐ245と重複しており、Ｐ235のプランが本遺構のプランを切っていることが確認されているので、本遺構が古いことがわかる。他の３基の柱穴は、本遺構を精査中に検出していることから、本遺構と同時期か古いことが推定される。遺物は、出土しなかった。

SD39溝状遺構（第５図、図版11）

MF50・51・52グリッドにほぼ南北方向に断続して伸びるプランを検出した。全長683ｃｍ、幅15～38ｃｍ、深さ3.1～9.5ｃｍである。Ｐ274、Ｐ277、Ｐ282の柱穴列とほぼ重複する関係にある。遺物は、出土しなかった。

SD40溝状遺構（第５図）

MG52・53グリッドに位置し、SD39溝状遺構と同じ方向性を有する。北側は、調査区外に伸びており、調査可能な全長は218ｃｍ、幅16～22ｃｍ、深さ3.7～7.1ｃｍである。遺物は、出土しなかった。

第２節　遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は、縄文土器、石器剥片、赤焼土器、須恵器、土製品、陶器、砥石、鉄滓である。赤焼土器と須恵器の出土量が多いが、そのグリッド別の出土量をみると、赤焼土器はMA48、MD50グリッド、須恵器がLR47グリッドからの出土量が多い。

①土器（第21図、図版12・14）

ａ.縄文土器（26・27）：26は内面が平滑に仕上げられており、27は内面の剥落が目立つ。

ｂ.赤焼土器（31）：31は、甕口縁部の破片で、胎土にやや粗い砂粒のほか赤褐色粒子を含む。

ｃ.須恵器（28～30・32～36）：28は、首が短く、頸部の屈曲が強いことから、横瓶と思われる。屈曲部に自然釉がかかっている。29・32は甕である。29は、頸部と胴部の境目に小さい段をもつが、その部分から頸部にかけて叩き目と思われる斜方向の痕跡が数条観察され、ロクロ目がそれを切っている。32は、縦位に３条のカキ目が認められる。30・33は、壷である。30は、頸部から胴部にかけての資料で、頸部と胴部の境に段を有する。33は、底部資料で、底部外面には粘土紐を巻いた痕跡が認められる。34～36は、口径に比して底径が大きく、器高が低い須恵器坏である。底部の切り離しは、ヘラ状の工具でナデられており不明である。

②陶器（第21図）

37は、珠洲系陶器と思われる擂鉢の底部である。外面はロクロ目、底部はヘラ状工具によりナデられているが、その際ヘラ状工具に付いた粘土を体部下端になすり付けている。内面には、放射状に卸し目が認められる。

③土製品（第22図、図版15）

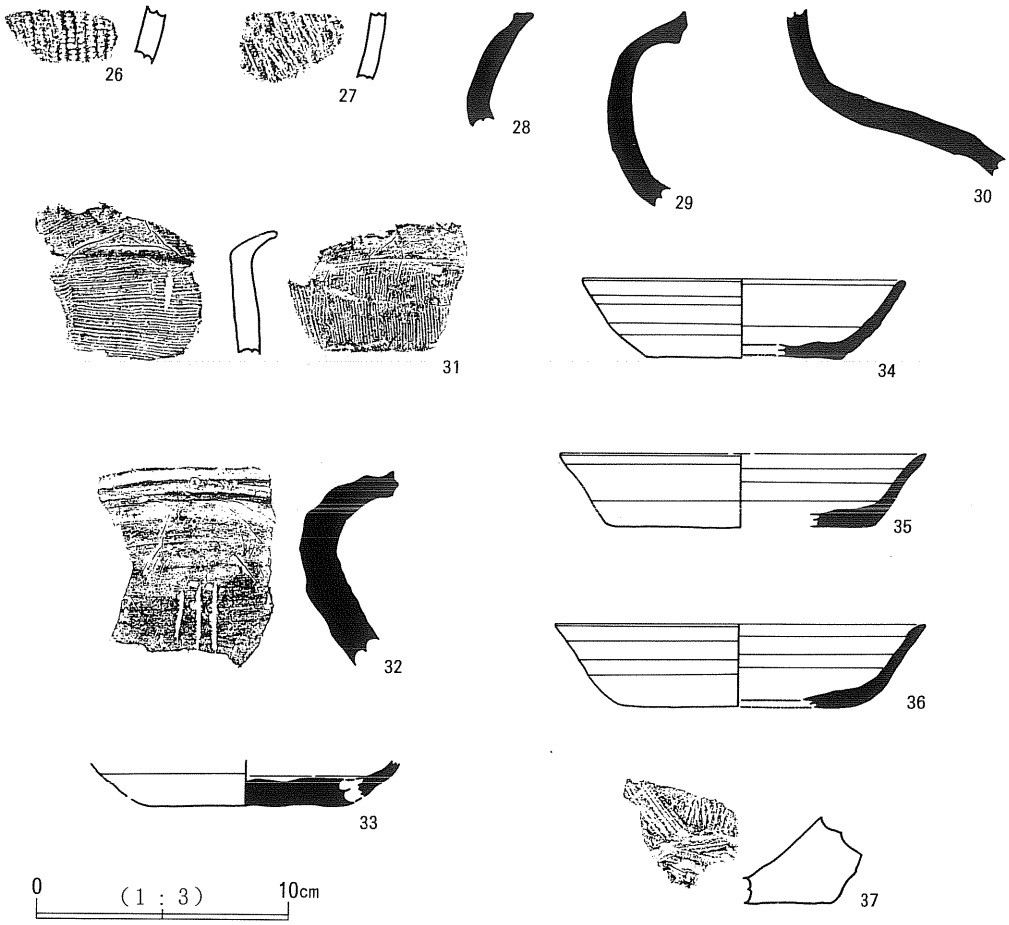
38は、粘土を円盤状にし、直径1.3ｃｍ前後の穴を多数あけたもので、甑等の底に入れて簀の子として用いたものと思われる。推定の大きさは直径6.4ｃｍあり、断面形は皿状である。色調は、にぶい橙色(7.5YR6／4)。胎土に１～２ｍｍの砂粒を含む。

④石器（第22図、図版15）

砥石２点が出土している。42は、表面に使用したと思われる平滑面が認められ、さらに３条の溝状の使用痕跡がみられる。また、右側面にも平滑な面が認められる。裏面は、上部に溝状の使用痕跡がみられる。43は、左側面と小口を除く各面に使用によると思われる平滑な面が認められる。

⑤その他（第22図、図版15）

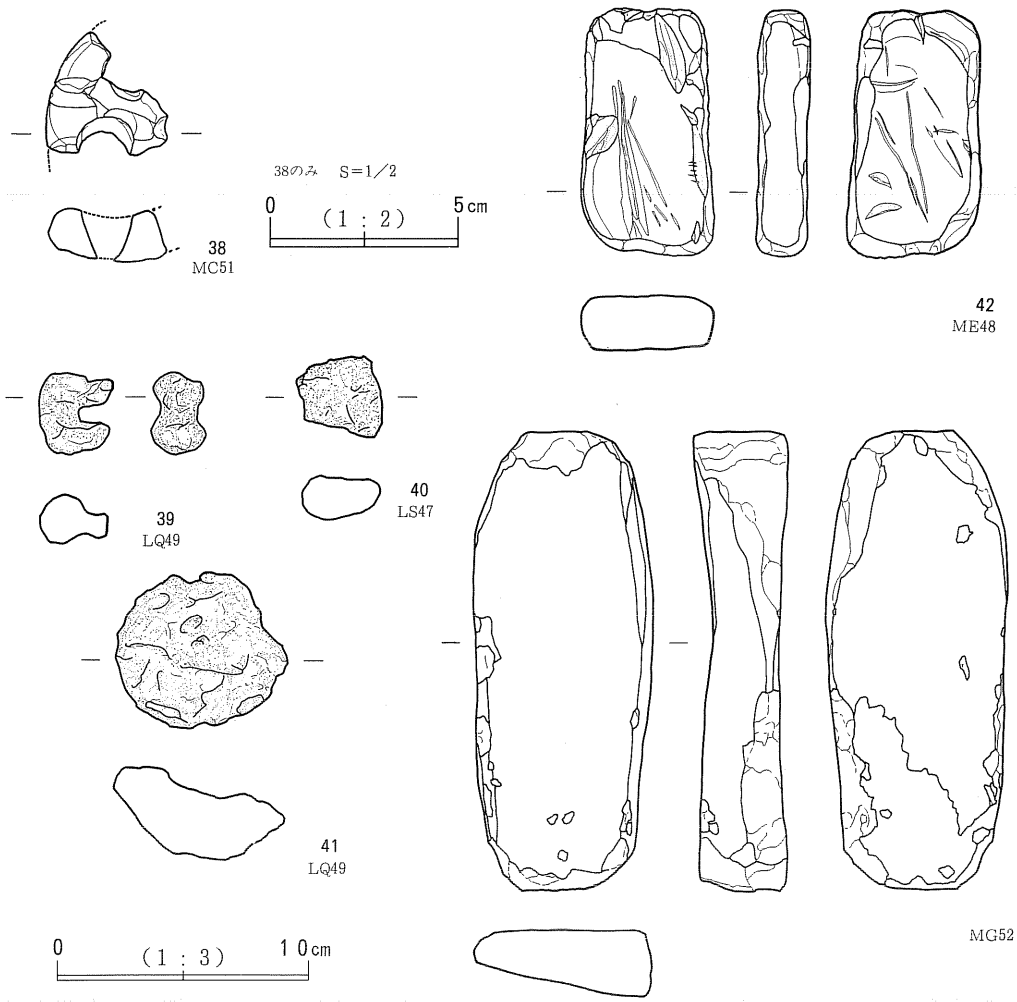
鉄滓３点が調査区西側で出土している。39は、金具のような感じもあるが、はっきりしない。



番号	出土地点	文　　様	胎土・焼成
26	MD 48	RL 縄文	2～5㎜大の砂粒少量 焼成良好
27	MA 48	r 撚糸文	1㎜大の砂粒多量 焼成良好

番号	出土地点	器　種	成　形	調　　整	外面	色　調	外面	胎土	焼成	法量 cm 口径	器高	底径
					内面		内面					
28	MD 49	須恵器横瓶	ロクロ			2.5GY5／1	オリーブ灰色	緻密	良	(12.0)	—	—
				ロクロ→ナデ		10Y6／1	灰色					
29	LR 48	須恵器甕	ロクロ	叩き目→ロクロ		N4／0	灰色	1～3㎜大の砂粒少量	良	(28.4)	—	—
						N4／0	灰色					
30	LR 47	須恵器壺	ロクロ			5B4／1	暗青灰色	1～5㎜大の砂粒を含む	良	—	—	—
						5B5／1	青灰色					
31	MA 48	赤焼土器甕	ロクロ	ロクロ→縦位のヘラナデ		5YR7／6	橙色	1～2㎜大の砂粒含む	良	—	—	—
				ロクロ→横位のヘラナデ		5YR6／6	橙色					
32	LR 48	須恵器甕	ロクロ	ロクロ→カキ目		N4／0	灰色	緻密	良	(20.6)	—	—
						N3／0	暗灰色					
33	ME 50	須恵器壺	ロクロ			2.5Y6／2	灰黄色	緻密	良	—	—	8.4
						2.5Y6／1	黄灰色					
34	LS 49	須恵器坏	ロクロ	ヘラ切り		2.5YR4／2	灰赤色	1㎜前後の砂粒を含む	良	(12.6)	(3.1)	(7.7)
						2.5YR4／2	灰赤色					
35	MA 48	須恵器坏	ロクロ	ヘラ切り		N6／	灰色	緻密	良	(14.3)	(3.0)	(10.5)
						N6／	灰色					
36	MC 48	須恵器坏	ロクロ	ヘラ切り		10Y6／1	灰色	緻密	良	(14.4)	(3.3)	(9.2)
						10Y6／1	灰色					
37	MF 51	珠洲系陶器 擂鉢	ロクロ			N3／0	暗灰色	緻密	良	—	—	(17.6)
				卸し目		N4／0	灰色					

第21図　遺構外出土遺物（１）



番号	出土地点	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石質
42	ME 48	9.8	5.2	2.1	175	凝灰岩
43	MG 52	18.2	7.0	3.8	689	凝灰岩

第22図　遺構外出土遺物（２）

第５章　まとめ

１．遺構について

検出された遺構は、掘立柱建物跡、柱穴、竪穴遺構、土坑、溝状遺構である。

掘立柱建物跡は、調査区西側に位置し、その柱穴は、掘り方をもち、径が20～30ｃｍ、深さ10～30ｃｍと規模は小さい。また、建物自体の構造も複雑なものではないようである。この建物跡の北と北東側に柱穴列が認められ、建物跡として取り上げることはできなかったが、２棟の掘立柱建物跡の存在が想定される。

土坑は、調査区中央東寄りに集中する傾向が認められる。断面形が皿状を呈する浅いものと、鍋底状を呈するやや深いものに分けることが可能である。皿状を呈するものは、規模の大小からさらに２つに分けられる。一方は径１ｍ前後、他方は径1.5～2.5ｍの規模である。SK08とした土坑からは、完形の遺物（坏）が重なって正位または背位で出土している。出土状況から廃棄されたというよりも、何らかの理由で埋められた可能性が大きいが、その性格は不明である。

溝状遺構は、長さは１ｍに満たないものから10ｍをこえるものまで様々であるが、幅は10数ｃｍから40ｃｍ、深さは数ｃｍから20ｃｍという範囲におさまる。また、SD39とSD40、鉤形（逆Ｌ字状）の形態を有するSD30とSD38などのように、溝状遺構同士が同一の方向性を持つものが認められる。

２．遺物について

出土遺物は、縄文土器、須恵器、土師器、赤焼土器、珠洲系陶器、土製品、砥石、鉄滓等である。縄文土器と珠洲系陶器は数点の出土であり、赤焼土器を主体とする平安時代のものが大部分を占める。

赤焼土器は、本書の前段で述べたように、技術的に須恵器の技法を用いながら、意図的に酸化炎焼成を行っているもので、一般に土師器にくらべて硬質とされている。しかし、本遺跡から出土した赤焼土器に関しては、非常に脆く取り上げの際に砕けてしまう状況であった。その器種には、坏、高台付坏、甕がみられる。坏は、浅黄橙色を呈し、ロクロにより成形を行い、底部切り離しは回転糸切りである。形態により２つに分けられた。ひとつは口径13～14ｃｍ、器高４～5.4ｃｍで、体部はやや丸味をもって立ち上がり、口縁部が外反するもの。他方は、口径10ｃｍ、器高2.5ｃｍ前後で、底部から外反ぎみに立ち上がるものである。甕は、体部の資料が認められ、調整技法から砲弾形を呈する甕と推測される。

須恵器は、坏、壷、横瓶、甕が認められる。そのうち坏は、口径に対して底径が大きく、器

高が低いという特徴がみられる。

土師器は、坏、甕が認められる。坏は内面黒色処理が施され、甕には底部に砂粒を付着させたものがSK08土坑から出土している。

3.遺跡の性格と年代について

最後に、本遺跡の特徴をあげ、遺跡の性格と年代について若干述べてまとめとしたい。

本遺跡は、①掘立柱建物跡が主体をなし、周囲に土坑が配されること。②溝状遺構と建物跡及び柱穴列の方向に相関が認められること。③出土遺物は赤焼土器が主体をなし、遺構のほとんどから赤焼土器が出土しているという特徴があげられる。

しかしながら、本遺跡の性格については、調査面積が台地の1割程度であることから不明と言わざるを得ない。ただ、遺構の配置状況からすれば、掘立柱建物跡が調査区外の北側に広がっている可能性がある。また、遺跡の年代としては、出土遺物から平安時代半ば（10世紀）頃と推定される。

本遺跡類似例としては、県内では藤木遺跡（大曲市）、立沢遺跡（仁賀保町）、宮の前遺跡（稲川町）の3例を数えることができる。いずれも掘立柱建物跡を中心に土坑、溝状遺構が配されるもので、赤焼土器が多く出土している。この3例のうち、遺跡の性格に言及しているのは立沢遺跡のみであり、その性格を集落跡としている。また、掘立柱建物跡の柱穴を比較してみると、規模の面で本遺跡例より上記3例のほうが立派でしっかりした印象を受ける。

（参考文献）

秋田県教育委員会 『広沢山遺跡発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第124集 1985 （昭和60年）

仁賀保町教育委員会 『立沢遺跡発掘調査報告書』 1987（昭和62年）

秋田県教育委員会 『宮の前遺跡発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第64集 1979 （昭和54年）

秋田県教育委員会 『藤木遺跡発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第81集 1981（昭和56年）

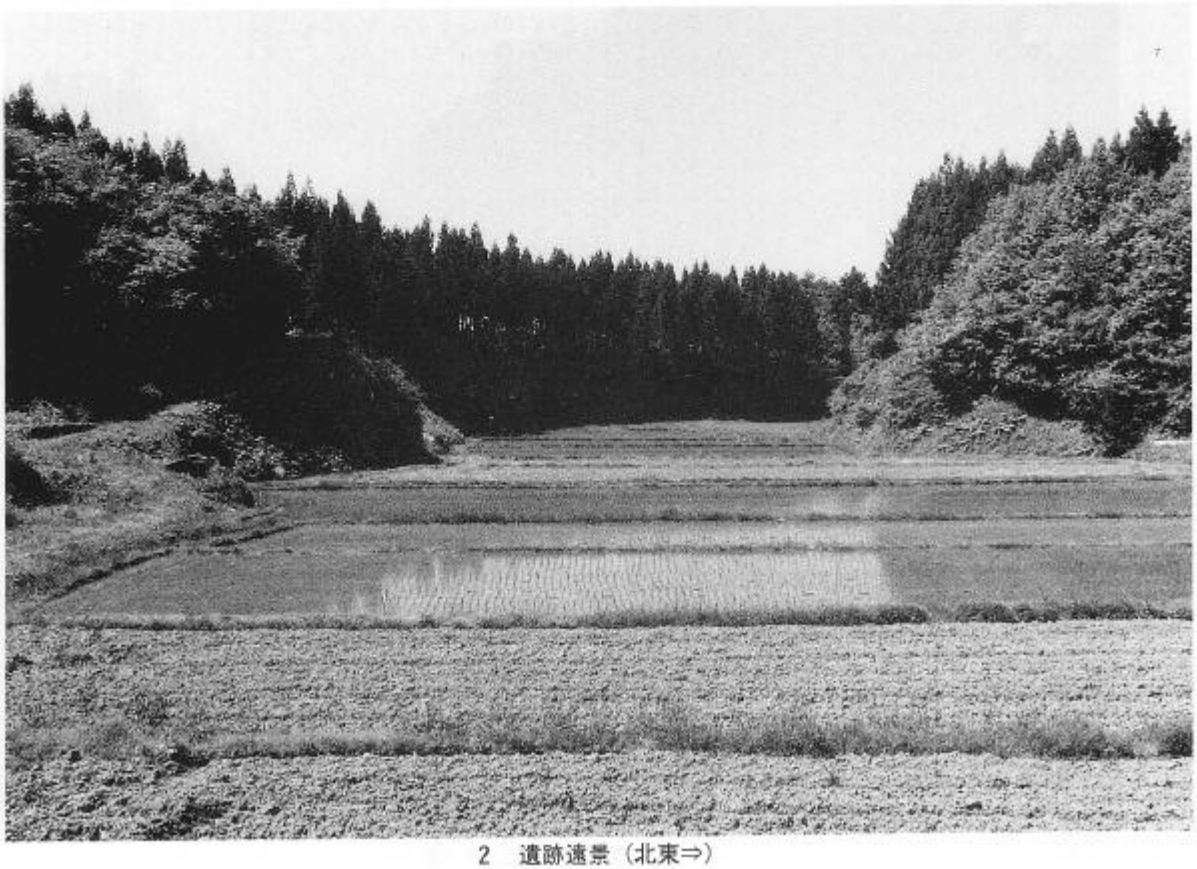
山形県教育委員会 『境興野遺跡』 山形県埋蔵文化財調査報告書第46集 1981（昭和56年）

秋田県教育委員会・払田柵跡調査事務所 『払田柵跡－昭和50年度発掘調査概要－払田柵跡調査事務所年報1975』 1976（昭和51年）

秋田市教育委員会 『秋田城跡－昭和50年度秋田城跡発掘調査概報』 1976（昭和51年）

小井川和夫 「いわゆる赤焼土器について」『東北歴史資料館 研究紀要』 第10巻 東北歴史資料館 1984（昭和59年）

1　遺跡遠景（南西⇒）



2　遺跡遠景（北東⇒）

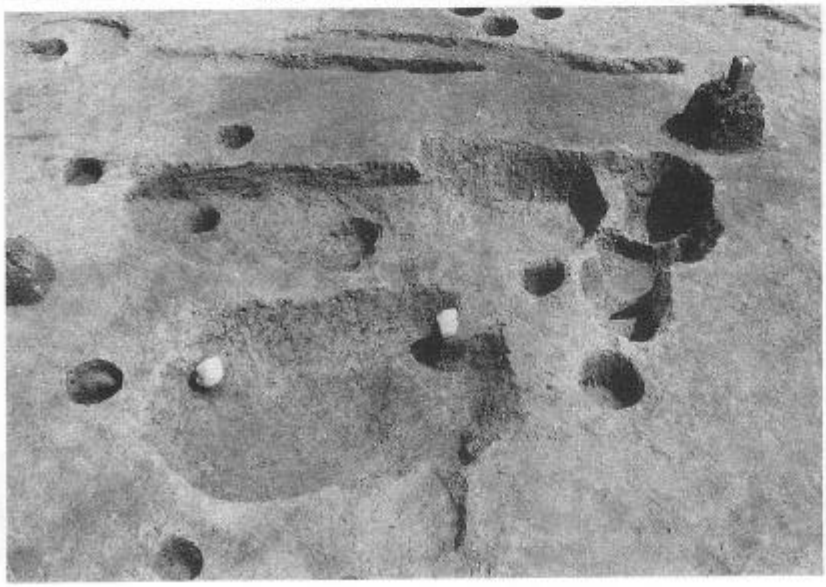
図版2

1　調査前近景（西⇒）

2　調査終了後近景（西⇒）

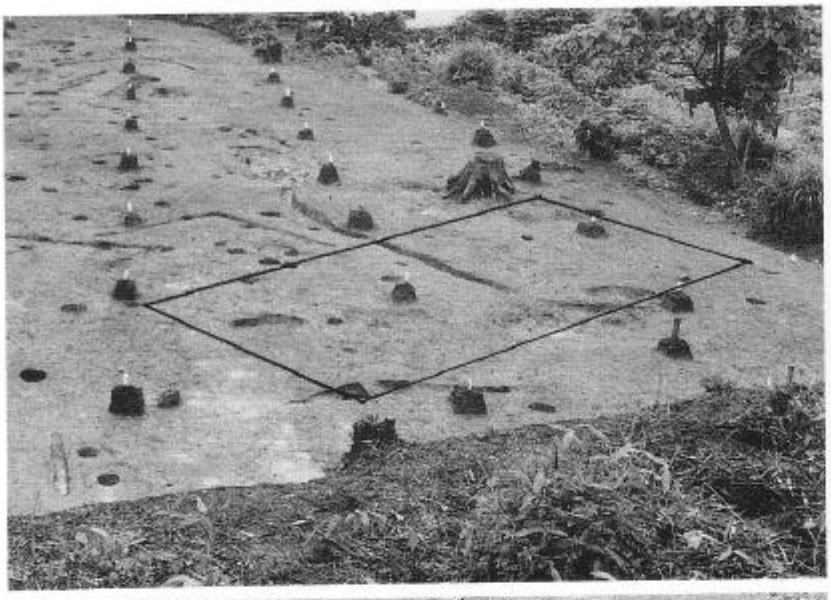
1　遺構集中（北東⇒）

2　遺構集中（南西⇒）



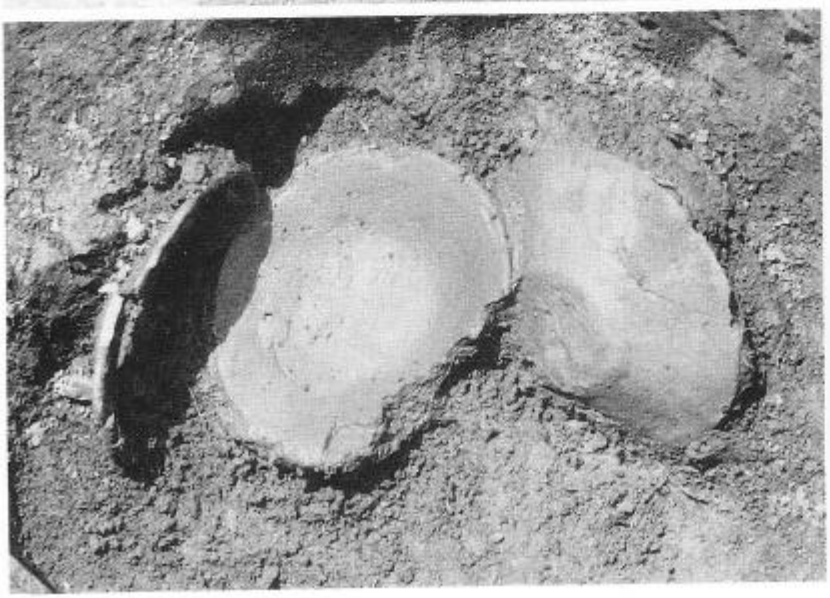
3　遺構集中（南⇒）

図版4



1　SB41掘立柱建物跡全景
（西⇒）

2　113号柱穴遺物出土状況①
（東⇒）



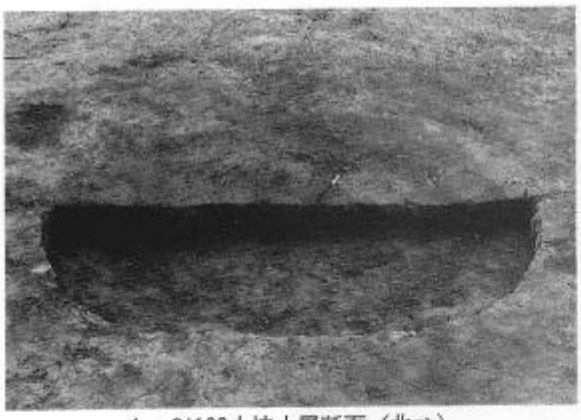
3　113号柱穴遺物出土状況②
（東⇒）

SKI15竪穴遺構土層断面
（南東⇒）

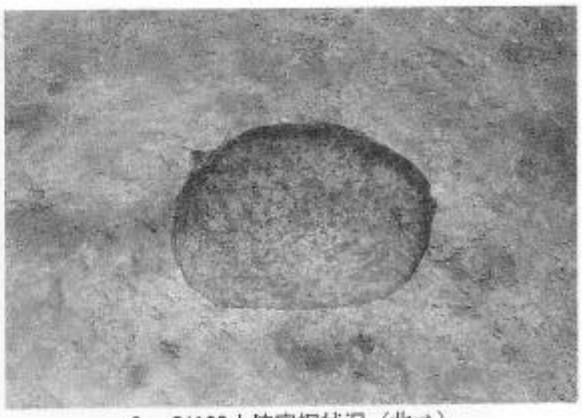
1　SKI15竪穴遺構土層断面
（南⇒）

1　SKI15竪穴遺構完掘状況
（南⇒）

図版6

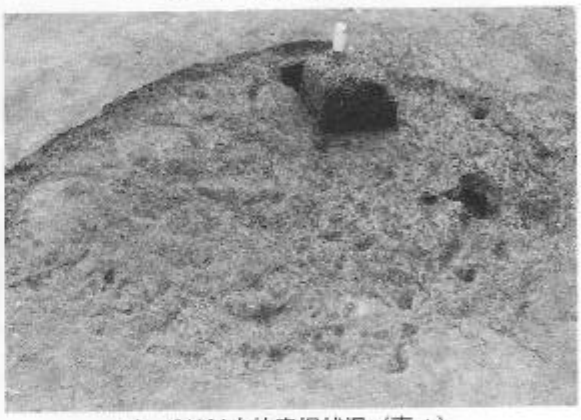


1　SK02土坑土層断面（北⇒）



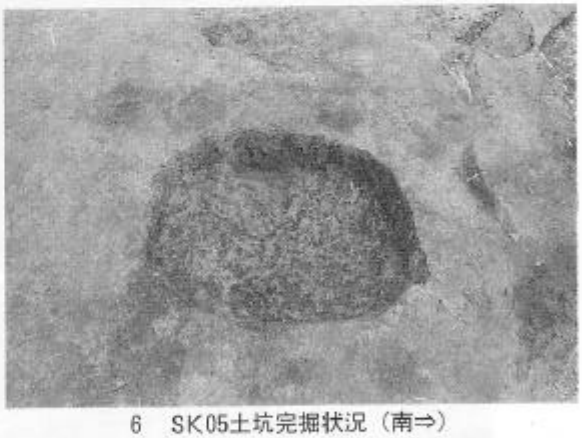
2　SK02土坑完掘状況（北⇒）

3　SK04土坑プラン確認状況（東⇒）



4　SK04土坑完掘状況（東⇒）

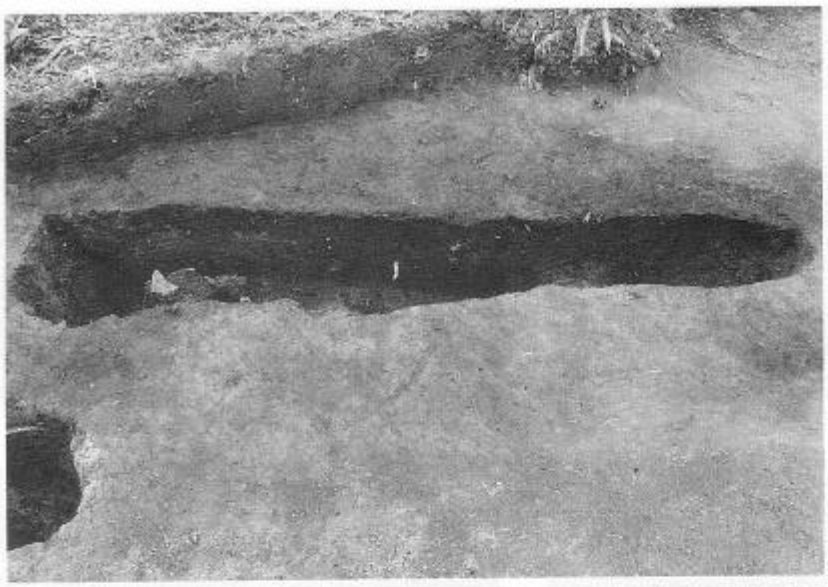
5　SK05土坑土層断面（東⇒）



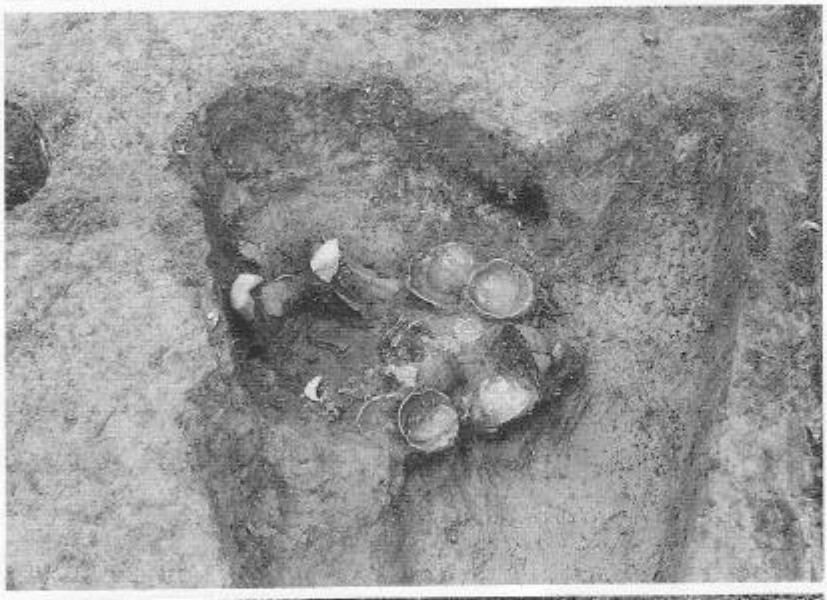
6　SK05土坑完掘状況（南⇒）

7　SK07土坑土層断面（南⇒）

8　SK07土坑完掘状況（北⇒）



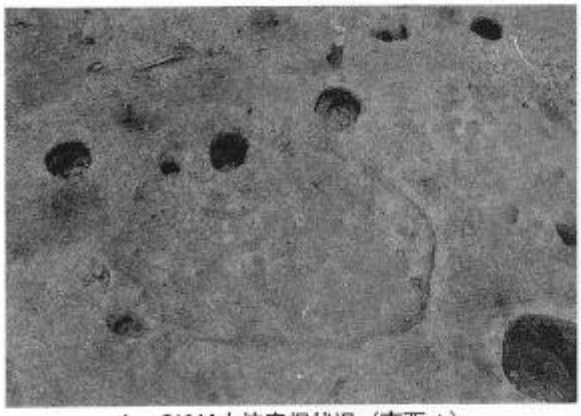
1　SK08土坑土層断面（南⇒）



2　SK08土坑遺物出土状況（東⇒）

3　SK08土坑完掘状況（東⇒）

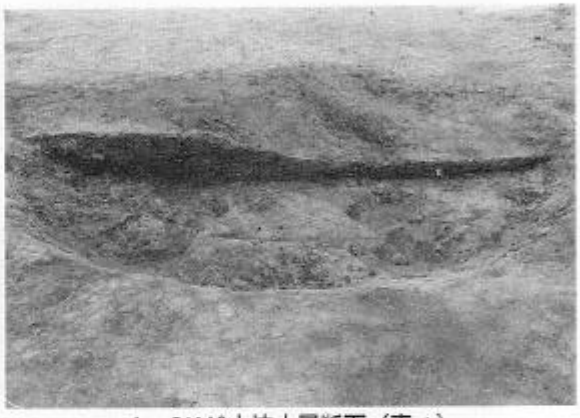
図版8



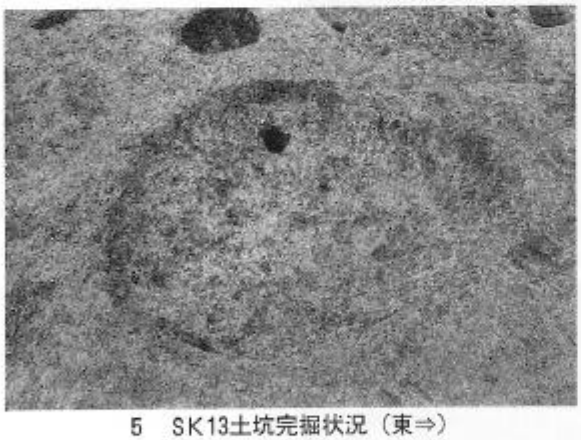
1　SK11土坑完掘状況（南西⇒）

2　SK12土坑土層断面（南⇒）

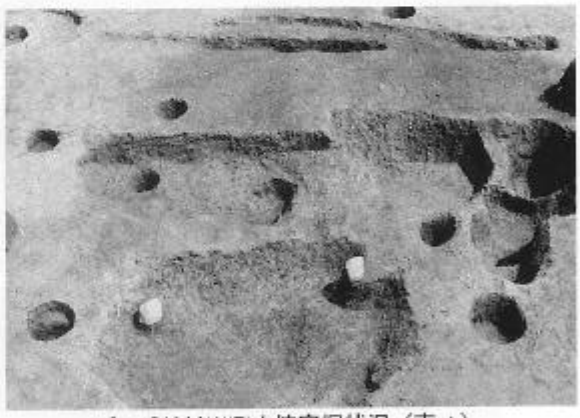
3　SK12土坑完掘状況（西⇒）



4　SK13土坑土層断面（東⇒）



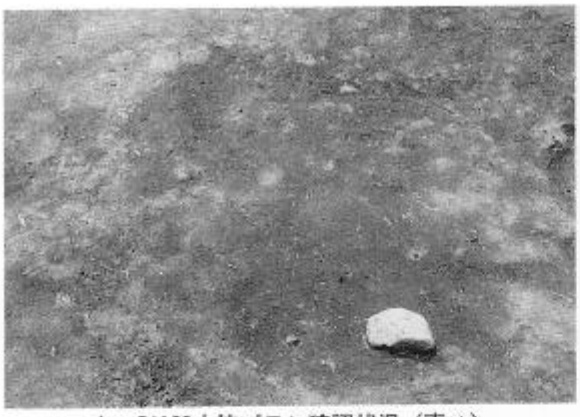
5　SK13土坑完掘状況（東⇒）



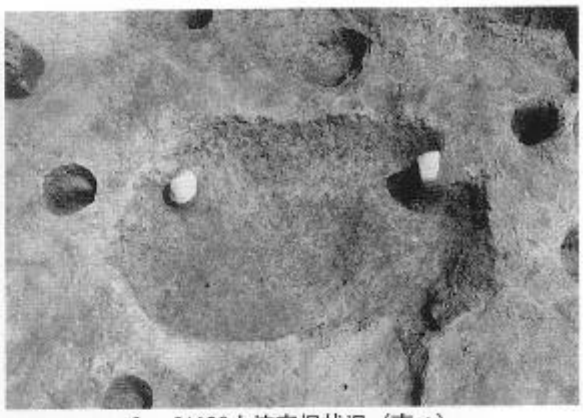
6　SK14(A)(B)土坑完掘状況（南⇒）

7　SK18土坑土層断面（東⇒）

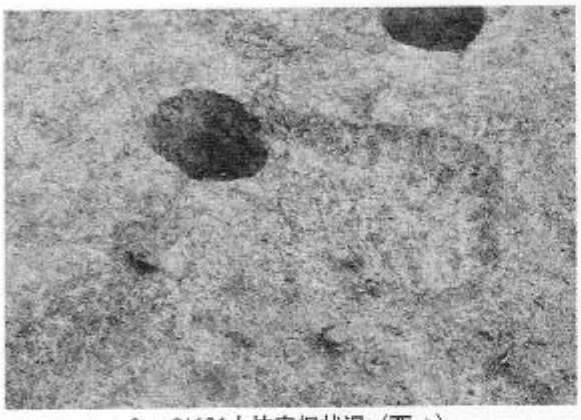
8　SK18土坑遺物出土状況（南⇒）



1　SK20土坑プラン確認状況（東⇒）



2　SK20土坑完掘状況（南⇒）

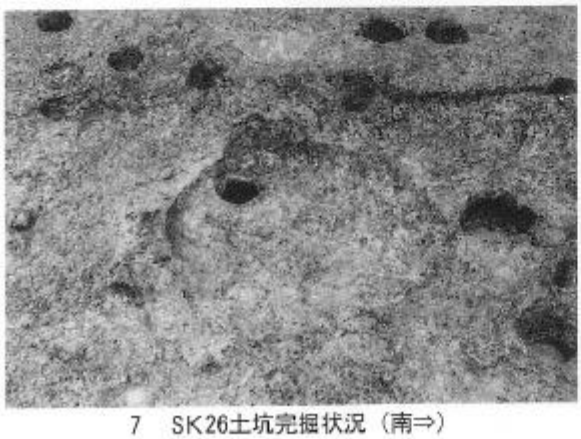


3　SK21土坑完掘状況（西⇒）

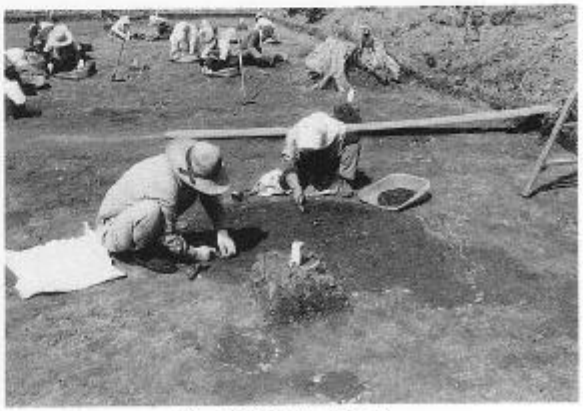
4　SK24・25土坑土層断面（東⇒）

5　SK24土坑完掘状況（東⇒）

6　SK25土坑完掘状況（東⇒）

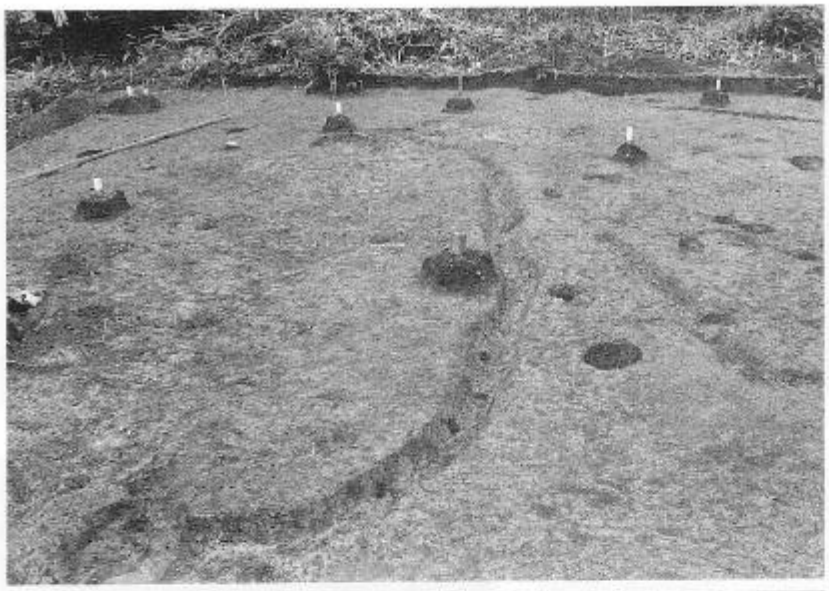


7　SK26土坑完掘状況（南⇒）



8　調査風景（東⇒）

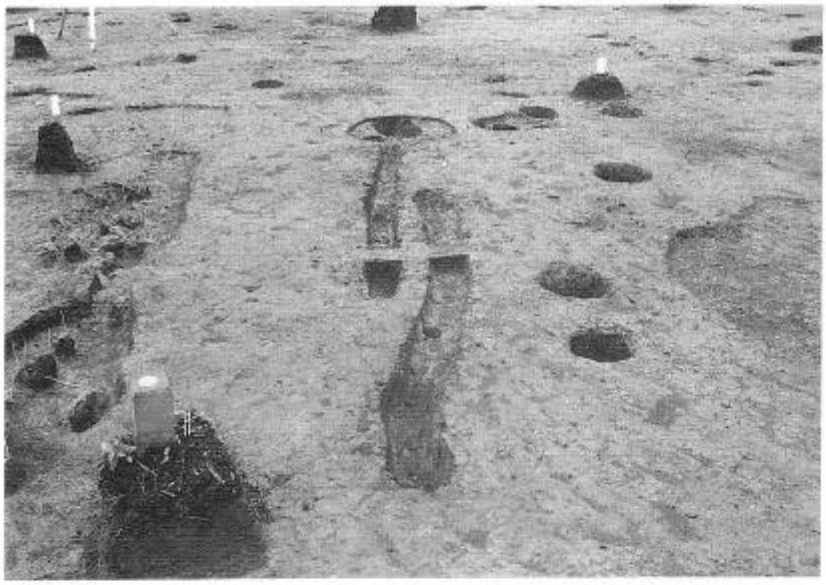
図版10



1　SD22溝状遺構完掘状況
（北東⇒）

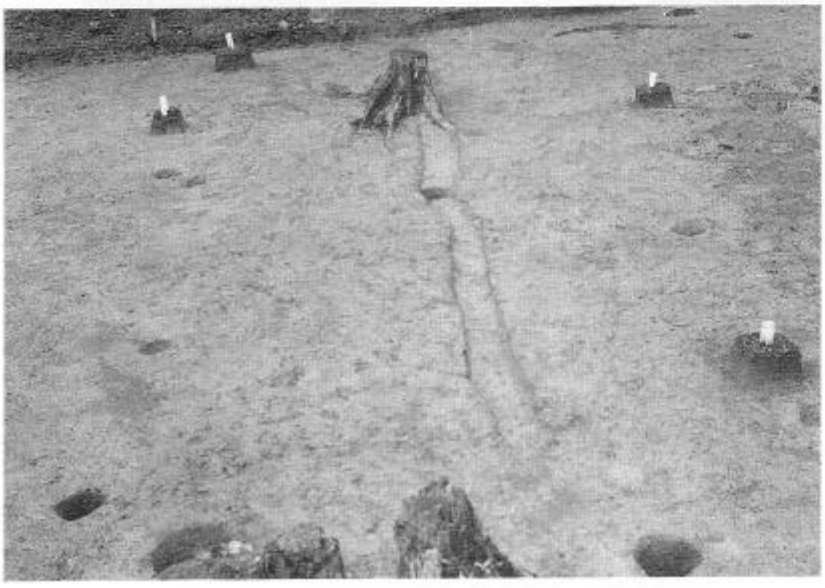
2　SD29溝状遺構完掘状況
（南⇒）

3　SD30溝状遺構完掘状況
（南⇒）



1　SD35・36溝状遺構完掘状況（南東⇒）

2　SD38溝状遺構完掘状況（南⇒）



3　SD39溝状遺構完掘状況（南⇒）

図版12

26

27

20

17

31

24

23

出土遺物－縄文土器・土師器－

4

5

6

12

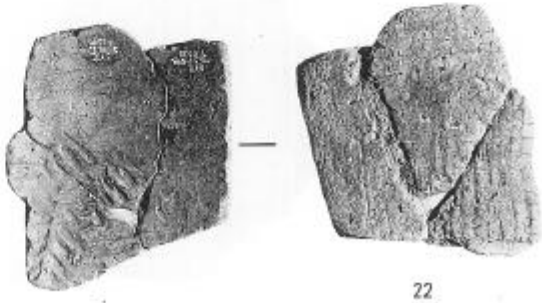
13

14

16

18

19


22

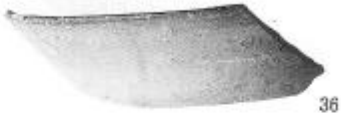
出土遺物－赤焼土器－

図版14

10

34

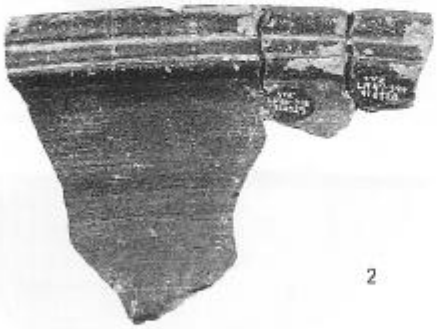
35


36

28

32

29

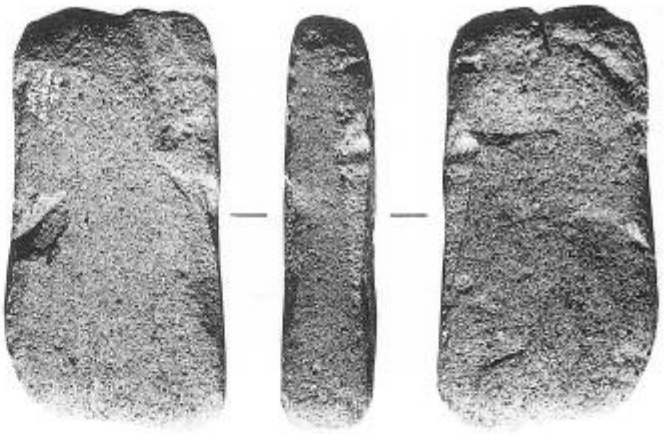

2

30

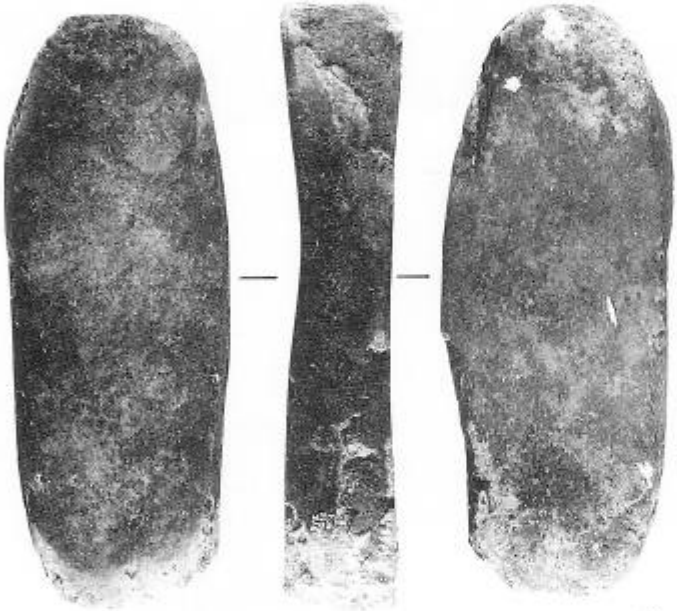
21

出土遺物－須恵器－

38



42



43

8

7

40

41

25

出土遺物－土製品・石器・鉄滓－